

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	外国語	学年	1 年 48 期生
担当者	古賀 邦子	期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
コマ数・時間数	8コマ・16h	専任・兼任	兼任
実務経験	公文教育研究会(英)英語指導員6年。		

一般目標(GIO)

歯科技工士としての専門用語の理解し、海外での生活に必要な会話力を身に付け、修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				Introducing	国際人として恥ずかしくない、自己紹介ができる。
2				Explaining your symptoms	様々な身体の症状を英語で理解できる。 重要表現のインプットを表現できる。
3				Questions & answers about pain Dictation 1	医療の場で使用する会話を英語で理解できる。 重要表現を聞いて書き取る。意味を理解できる。
4				Listening about symptoms & pain	ネイティブの英語を聞いて、声に出すことができる。
5				Learning technical terms Dictation 2	歯科の専門用語を辞書を引きながら学習、理解できる。 重 要表現を聞いて書き取ることができる。
6				Learning technical terms。 Dictation 3	歯科技工士として必要な専門用語の学習し、重要表現を聞いて書き取ることができる。 意 味を理解することができる。
7				Calling someone Making an appointment	電話で挨拶をする表現、面会の予約をする表現の学習、理解できる。
8				Review Dictation 4	作成したチェックシートの再確認できる。 重要表現を聞き書き取る。意味を理解できる。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価基準				教科書	参考書
会話テスト	10%	新歯科技工士教本 歯科英語		歯科技工辞典	
Dictation check	20%			ミミテック英語マスター	
筆記テスト	70%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:40~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	造形美術	学年	1 年 48 期生
担当者	諸井 謙司	期 別	後期
単 位 数	2 単 位	講義・実習	講義
コマ数・時間数	16コマ・32h	専任・兼任	兼任
実務経験	彫刻家として9年。平成30年より佐賀北高校非常勤講師勤務。		

歯科技工に必要な美的感覚(色彩・形態)を養うための基礎的なデッサン実技、立体作品を制作する。
正確な形を把握するため、デッサンを生かすことを学ぶ。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1・2				対象の把握と表現 1	手のデッサンを通して鉛筆、用具の使用方法、グラデーションが理解できる。
3・4				対象の把握と表現 2	球のデッサンから陰影のつけ方グラデーションの利用ができる。
5・6				対象の把握と表現 3 1、歯のデッサン	立方体のデッサンから陰影のつけ方ができる。 歯のスケッチをし、形の特徴を捉えることができる。
7・8				(3章) 歯のデッサンと鑑別 2、歯のデッサン	歯の正確な形を捉えるため、観察しデッサンする歯の形態を説明できる。
9・10				(3章) 歯のデッサンと鑑別 3、顔の観察と表現	顎顔面の形態を描写できる。
11・12				(3章) 歯のデッサンと鑑別 4、顔の彫刻再現	顎顔面の形態を彫刻できる。
13・14				形態の把握と表現 勾玉制作	各自デザインした勾玉を、イメージした形で再現し高い完成度を目指し仕上げる ことができる。
15・16				(3章) 歯のデッサンと鑑別 色彩の把握と表現	色の三属性と歯の色彩の関係を説明できる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	90%	歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻	
平常点	10%		
	%		
	%		

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	関係法規	学年	1 年 48 期生
担当者	福島 淳司	期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
コマ数・時間数	8コマ・16h	専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院・歯科技工所で3年間実務経験のある教員が教育を行う。		

一般目標(GIO)

医療人としての遵法精神を身に付けるために、歯科技工士として必要な法律を理解し、遵法する。

--	--	--	--	--	--

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				(10章) 衛生行政	法律の概要・衛生行政の意義・衛生行政の組織と活動を説明できる。
2				(11章) 歯科技工士法 1. はじめに 2. 総則	歯科技工士法の目的・歯科技工の法的定義・歯科技工士の法的定義・歯科技工所の法的定義を説明できる。
3				(11章) 歯科技工士法 3. 免許	歯科技工士免許に関する法律を説明できる。
4				(11章) 歯科技工士法 4. 試験5. 業務	歯科技工士国家試験の意義と目的・歯科技工業務の内容を説明できる。
5				(11章) 歯科技工士法 6. 歯科技工所	歯科技工所に関する法律を説明できる。
6				(11章) 歯科技工士法 7. 雑則 8. 罰則	歯科技工に関する違反行為と罰則を説明できる。
7				(12章) 医療法、歯科医師法、歯科衛生士法	医療法の目的を説明でき、病院と診療所の法的定義を述べ、歯科医師法・歯科医師の任務・歯科衛生士法の目的を述べ、歯科衛生士の法的定義を説明できる。
8				まとめ 確認試験	確認試験

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	歯科技工管理学	歯科技工士国家試験対策⑦関係法規
	%		
	%		
	%		

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	歯科技工概論	学年	1 年 48 期生
担当者	尾崎 正雄	期 別	前期
単 位 数	2 単 位	講義・実習	講義
コマ数・時間数	15コマ・30時間	専任・兼任	兼任
実務経験	歯科大学 小児歯科学分野で診療		

一般目標(GIO)

医療分野における歯科医療の重要性、歯科医療における歯科技工の役割を理解し、
 専門基礎科目と専門科目における学習を的確に行うために、
 それらに必要な基礎的事項を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				1) 歯科医療と歯科技工	①医療と歯科医療を説明する。②歯科医療の目的を説明することができる。 ③歯科医療機関の役割を述べるができる。
2				1) 歯科医療と歯科技工	④歯科医療関係職種を述べるができる。 ⑤歯科技工と歯科技工学を説明することができる。
3				2) 歯科技工士の役割	①歯科技工士の業務を述べるができる。②歯科技工士の倫理を述べるができる。 ③歯科技工士の現状を述べるができる。
4				3) 顔・口腔組織の形態と機能	①顔の形態と機能を説明することができる。②口腔の形態を説明することができる。 ③口腔の機能を説明することができる。
5				4) 歯科疾患と周囲組織の変化	①歯の異常を説明することができる。②歯列不正・咬合の異常を説明することができる。 ③歯および硬組織疾患を説明することができる。④歯髄の疾患を説明することができる。
6				4) 歯科疾患と周囲組織の変化	⑤歯周組織疾患を説明することができる。⑥顎関節症を説明することができる。⑦ 舌および口腔軟組織疾患を説明することができる。
7				4) 歯科疾患と周囲組織の変化	⑧顎骨および顔面の疾患を説明することができる。⑨歯の喪失に伴う周囲組織変化を説明 することができる。⑩歯科疾患の現状を述べることができる。
8				5) 歯科臨床と歯科技工	①硬組織疾患と歯科技工を説明することができる。②歯の欠損と歯科技工を説明するこ とができる。③歯周疾患と歯科技工を説明する。④歯列不正と歯科技工を説明するこ とができる。
9				6) 歯科臨床と歯科技工	⑤口腔外科疾患と歯科技工を説明することができる。⑥顎関節症と歯科技工を説明す ることができる。
10				5) 歯科臨床と歯科技工	⑦スポーツ歯科と歯科技工を説明することができる。⑧歯科技工のデジタル化を説明す ることができる。⑨歯科法医学と歯科技工を説明することができる。
11				6) 歯科技工の管理運営	①歯科技工の作業環境を説明することができる。②歯科技工業務の運営を説明するこ とができる。③歯科技工の衛生管理を説明することができる。
12				7) 口腔全身の健康管理	①加齢現象(エイジング)を説明することができる。 ②咀嚼と健康を説明する。③歯科技工の衛生管理を述べることができる。
13				7) 口腔全身の健康管理	④健康政策を説明することができる。⑤健康政策を説明することができる。 ⑥災害時の歯科医療を説明することができる。
14				8) 情報のリテラシー	①ハードウェアを述べるができる。 ②ソフトウェアを述べるができる。
15				9) コミュニケーション	①コミュニケーションの概要を説明することができる。 ②接遇マナーを述べるができる。③身だしなみを述べるができる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	最新歯科技工士教本 歯科技工管理学 全国歯科技工教育協議会編 (医歯薬出版)2017年	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	口腔・顎顔面解剖学	学年	1 年 48 期生
担当者	山座 孝義	期 別	前期
単 位 数	4 単 位	講義・実習	講義
コマ数・時間数	30 コマ・60h	専任・兼任	兼任

実務経験

大学での解剖学・口腔解剖学・発生学の講義を経験する教員が口腔・顎顔面解剖学について解説する。
【九州大学歯学部・解剖学(6.5単位)、口腔解剖学(2単位)、発生学(1単位)】

一般目標(GIO)

本科目では、歯牙解剖学ならびに口腔組織発生学、口腔解剖学を学美、以下のことを理解することを目標とする。

歯の解剖学では、歯の種類や形態、歯列、さらにその異常を加えて、顔面・口腔・歯の発生の他、歯や歯周組織

、顎骨、歯肉、口腔粘膜の構造について理解する。

口腔解剖学では、顎顔面口腔領域の骨や筋、脈管、唾液腺などについて理解する。これらの歯と顎顔面口腔の

構造の理解を通じ、歯と口腔の構造を三次元的に捉え、歯科技工士としての臨床業務へと応用する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				(1章) 歯の概説 1. 歯の定義 2. 歯の機能 3. 歯の生物学的特徴	歯の生物学的特性、歯の外形と内形、歯の種類と名称、歯の植立様式を理解し、説明できる。
2				(1章) 歯の概説 4. 歯の植立 5. 歯の外形と内形 6. 歯の種類と分類	
3				(1章) 歯の概説 7. 歯の記号と歯式 8. 歯の名称	歯の記号と歯式の表示法、歯の方向と部位、歯の形態を理解し、説明できる。
4				(2章) 永久歯の形態 9. 歯の形の特徴	
5				(2章) 永久歯の形態 1. 切 歯 2. 側切歯	永久歯(切歯・犬歯)の形態的特徴を理解し、説明できる。
6				(2章) 永久歯の形態 3. 犬歯	
7				(2章) 永久歯の形態 3. 小臼歯	永久歯(小臼歯)の形態的特徴を理解し、説明できる。
8				(2章) 永久歯の形態 4. 小臼歯	
9				(2章) 永久歯の形態 5. 大臼歯	永久歯(大臼歯)の形態的特徴を理解し、説明できる。
10				(2章) 永久歯の形態 5. 大臼歯	
11				(3章) 乳歯の形態 1. 乳歯の機能と特徴 2. 乳 切歯	乳歯の形態的特徴を理解し、説明できる。
12				(3章) 乳歯の形態 3. 乳犬歯 4. 乳臼歯	
13				(4章) 歯の発生 1. 細胞と組織の発生 2. 歯の発生	歯の発生、発育および交換の過程を理解し、説明できる。
14				(4章) 歯の発生 3. 歯の萌出と脱落	

15			(5章) 歯と歯周組織 1. 歯の組織 2. 歯周組織	歯の組織および歯周組織の基本的構造と、それらの加齢変化を理解し、説明できる。
16			(5章) 歯と歯周組織 3. 歯や歯周組織の加齢現象	
17			(6章) 歯の異常 7. 萌出異常 8. 歯列弓の異常 (7章) 歯列・咬合 1. 歯列	歯の数、形態および色の異常について理解し、説明できる。
18			(7章) 歯列・咬合 2. 歯列弓 3. 咬合彎曲 4. 隣在歯との関係 5. 上下歯列弓の位置関係 6. 切 歯の咬合関係 8. 歯の 植立	
19			(8章) 頭蓋の骨 1. 脳頭蓋骨	頭蓋骨(脳頭蓋骨)の構造を理解し、説明できる。
20			(8章) 頭蓋の骨 2. 脳頭蓋骨	
21			(8章) 頭蓋の骨 3. 頭蓋の全景	頭蓋骨(顔面頭蓋骨)の構造を理解し、説明できる。
22			(8章) 頭蓋の骨 4. 頭蓋の全景	
23			(9章) 口腔周囲の筋 1. 浅頭筋 2. 深頭筋	顎顔面の筋の形態的特徴と機能を理解し、説明できる。
24			(9章) 口腔周囲の筋 3. 舌骨筋群	
25			(10章) 顎関節 1. 顎関節の構造	顎関節の構造と機能を理解し、説明できる。
26			(10章) 顎関節 2. 下顎の運動	
27			(11章) 口腔 1. 口腔の隣接器官 2. 口腔	口腔と口蓋の構造を理解し、説明できる。顎口腔の神経支配を概要できる。
28			(11章) 口腔 3. 口蓋	
29			(11章) 口腔 4. 唾液腺 5. 舌	唾液腺の役割と存在部位とともに舌の構造と役割を理解し、説明できる。あわせて、顎口腔の加齢現象を説明できる。
30			(11章) 口腔 6. 咽頭と喉頭	
評価基準			教科書	参考書
筆記試験	100%	最新歯科技工士教本		
	%	口腔・顎顔面解剖学		
	%			
	%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	歯型彫刻実習	学年	1 年 48 期生
担当者	福島淳司	期別	前期
単位数	5 単位	講義・実習	実習
コマ数・時間数	82コマ・164h	専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院・歯科技工士所で3年間実務経験のある教員が教育を行う。		

一般目標 (GIO)

口腔解剖学・発生学で学んだ知識に基づき、機能美を備えた歯の形態を造形する彫刻技術を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				上顎中切歯 スケッチ	歯を立体的に表現することで、歯列の構成要素としてあるべき歯の形態および特徴の認識を深めスケッチを行うことができる。
2				上顎中切歯 石膏ブロック流し	真空攪拌機の使用法を身に付け、気泡が入らないようにゴム印象に石膏注入操作を行うことができる。
3				上顎中切歯 石膏ブロック調整	ノギスを用い石膏棒の測定法を身に付け、砥石を用い石膏棒を規定の寸法に調整を行うことができる。
4				上顎中切歯 番号記入	番号記入に必要な道具を準備し、番号設計を行い、設計した番号を油性マジックで規定の寸法に記入を行うことができる。
5				上顎中切歯 面取り(設計)	面取りの記入に必要な道具を準備し、見本模型の基準点の座標の測定を行い、寸法を元に各面に設計を行うことができる。
6				上顎中切歯 面取り(彫刻)	歯の大きさを理解しノギスを用い石膏棒の測定法・切り出しナイフの使用法を身に付け、石膏棒を規定のサイズに彫刻を行うことができる。
7				上顎中切歯 近遠心側面外形の記入	見本模型の基準点の座標を測定を行い、角柱の各面にマーキングを行い、この基準点をもとに各面の外形の記入を行うことができる。
8				上顎中切歯 近遠心側面外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、外形線の外周を平滑に彫刻を行うことができる。
9				上顎中切歯 唇舌側面外形の記入	外形の記入に必要な道具を準備し、隅角徴を理解し近遠心側面を削った石膏棒に唇舌側面外形の記入を行うことができる。
10				上顎中切歯 唇舌側面外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、外形線外周を平滑に彫刻を行うことができる。
11				上顎中切歯 下面観外形の記入	外形の記入に必要な道具を準備し、彎曲徴を理解し歯を上面から観察して石膏棒の上面より記入を行うことができる。
12				上顎中切歯 下面観外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、外形線の外周を平滑に彫刻を行うことができる。
13				上顎中切歯 歯頸線の記入	歯頸線の記入に必要な道具を準備し、近遠心・唇舌側面の歯頸線の記入を行うことができる。
14				上顎中切歯 歯頸線の彫刻	歯頸線の彫刻に必要な道具を準備し、エマージェンスプロファイルが得られるような調整を習得し、彫刻を行うことができる。
15				上顎中切歯 歯根の彫刻	歯根の彫刻に必要な道具を準備し彫刻を行うことができる。

16			上顎中切歯	舌側面窩の記入	舌側面窩の彫刻に必要な道具を準備し、舌側面窩に舌側面溝の記入を行うことができる。
17			上顎中切歯	舌側面窩の彫刻	舌側面窩の彫刻に必要な道具を準備し舌側面窩の彫刻を行うことができる。
18			上顎中切歯	唇側面の記入	切縁は機能面で最も重要な部分であることを念頭に置き、唇側面に唇側面溝・横走隆線の記入を行うことができる。
19			上顎中切歯	唇側面の彫刻	前歯の機能の理解・天然歯のもつ有機的な造形美の表現法を習得し、唇側面の彫刻を行うことができる。
20			上顎中切歯	仕上げ	カービングナイフなどで彫刻面を平滑に整え、歯ブラシやペーパーを用い彫刻した各面を整え全体の仕上げを行う。
21			上顎犬歯	スケッチ	歯を立体的に表現することで、歯列の構成要素としてあるべき歯の形態および特徴の認識を深めスケッチを行うことができる。
22			上顎犬歯	石膏ブロック製作	石膏注入操作に必要な真空攪拌機の使用法を身に付け石膏硬化後、ノギス・砥石を用い石膏棒を規定の寸法に調整を行うことができる。
23			上顎犬歯	番号記入・面取り(設計)	設計した番号を油性マジックで規定の寸法に記入を行うことができる。見本模型基準点の測定を行い寸法を元に各面に設計ができる。
24			上顎犬歯	面取り(彫刻)	歯の大きさを理解し、ノギスを用い石膏棒の測定法・切り出しナイフの使用法を身に付け、石膏棒を規定のサイズに彫刻を行うことができる。
25			上顎犬歯	近遠心側面外形の記入	各面の名称を理解し、見本模型基準点を測定をして各面にマーキングを行い、この基準点をもとに各面の外形の記入を行うことができる。
26			上顎犬歯	近遠心側面外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、外形線の外周を平滑に彫刻を行うことができる。
27			上顎犬歯	唇舌側面外形の記入	外形の記入に必要な道具を準備し、隅角徴を理解し近遠心側面を削った石膏棒に唇舌側面外形の記入を行うことができる。
28			上顎犬歯	唇舌側面外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、外形線外周を平滑に彫刻を行うことができる。
29			上顎犬歯	下面観外形の記入	外形の記入に必要な道具を準備し、彎曲徴を理解し、歯を上面から観察し石膏棒の上面より記入を行うことができる。
30			上顎犬歯	下面観外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、彎曲徴を意識し外形線の外周を平滑に彫刻を行うことができる。
31			上顎犬歯	歯頸線の記入・彫刻	近遠心・唇舌側面の歯頸線の違いを理解し歯頸線の記入を行い、エマーゼンスプロファイルが得られるような彫刻を行うことができる。
32			上顎犬歯	歯根の彫刻	歯根の彫刻に必要な道具を準備し、彫刻を行うことができる。
33			上顎犬歯	舌側面窩の記入・彫刻	舌側面窩の記入・彫刻に必要な道具を準備し、舌側面窩に舌側面溝の記入・彫刻を行うことができる。
34			上顎犬歯	唇側面の記入・彫刻	尖頭の機能を理解し・天然歯のもつ有機的な造形美の表現法を習得し、唇側面に唇側面溝・横走隆線の記入・彫刻を行うことができる。
35			上顎犬歯	仕上げ	カービングナイフなどで彫刻面を平滑に整え、歯ブラシやペーパーを用い彫刻した各面を整え全体の仕上げを行うことができる。
36			上顎第一小臼歯	石膏ブロック製作	ゴム印象に石膏注入操作を行い、石膏硬化後、ノギス・砥石を用い石膏棒を規定の寸法に調整を行うことができる。
37			上顎第一小臼歯	番号記入・面取り(設計)	設計した番号を油性マジックで規定の寸法に記入を行うことができる。見本模型基準点の測定を行い寸法を元に各面に設計ができる。
38			上顎第一小臼歯	面取り(彫刻)	歯の大きさを理解しノギスを用い石膏棒の測定法・切り出しナイフの使用法を身に付け、石膏棒を規定のサイズに彫刻を行うことができる。
39			上顎第一小臼歯	近遠心側面外形の記入	石膏棒の各面の名称を理解し、見本模型基準点の測定をし角柱の各面にマーキングを行い、この基準点に各面の外形の記入を行うことができる。
40			上顎第一小臼歯	近遠心側面外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、外形線の外周を平滑に彫刻を行うことができる。

41			上顎第一 小白歯	頬舌側面外形の記入	外形の記入に必要な道具を準備し、逆隅角徴を理解し近遠心側面を削った石膏棒に頬舌側面外形の記入を行うことができる。
42			上顎第一 小白歯	頬舌側面外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、咬頭の向き・高さに注意し外形線外周を平滑に彫刻を行うことができる。
43			上顎第一 小白歯	下面観外形の記入	外形の記入に必要な道具を準備し、逆彎曲徴を理解し、歯を上面から観察し石膏棒の上面より記入を行うことができる。
44			上顎第一 小白歯	下面観外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、逆彎曲徴を意識し外形線の外周を平滑に彫刻を行うことができる。
45			上顎第一 小白歯	歯頸線の記入・彫刻	近遠心・唇舌側面の歯頸線の違いを理解し歯頸線の記入を行い、エマーゼンスプロファイルが得られるような調整彫刻を行うことができる。
46			上顎第一 小白歯	歯根の彫刻	歯根の彫刻に必要な道具を準備し、根数・歯根の流れに注意し、歯根の彫刻を行うことができる。
47			上顎第一 小白歯	固有咬合面の記入	固有咬合面の記入に必要な道具を準備し、固有咬合面の記入を行うことができる。
48			上顎第一 小白歯	固有咬合面の彫刻	隣在歯を仮想した頬・舌側の歯列曲線に乗るように調整し、逆彎曲徴を理解し外形を固有咬合面まで丸めを行うことができる。
49			上顎第一 小白歯	辺縁・主溝・副溝の記入	辺縁・主線の記入に必要な道具を準備し、辺縁・主溝・副溝の記入を行うことができる。
50			上顎第一 小白歯	辺縁・主溝・副溝の彫刻	機能咬頭と非機能咬頭の形態や位置関係、辺縁隆線や各面へ移行部の整え方法・天然歯のもつ有機的な表現彫刻を行うことができる。
51			上顎第一 小白歯	仕上げ	カービングナイフなどで彫刻面を平滑に整え、歯ブラシやペーパーを用い彫刻した各面を整え全体の仕上げを行うことができる。
52			上顎第一 大白歯	石膏ブロック製作	ゴム印象に石膏注入操作を行い、石膏硬化後、ノギス・砥石を用い石膏棒を規定の寸法に調整を行うことができる。
53			上顎第一 大白歯	番号記入・面取り(設計)	規定の寸法に記入を行い、面取りの記入に必要な道具を準備し見本模型の基準点の測定を行い寸法を元に各面に設計を行うことができる。
54			上顎第一 大白歯	面取り(彫刻)	歯の大きさを理解しノギスを用い石膏棒の測定法・切り出しナイフの使用法を身に付け、石膏棒を規定のサイズに彫刻を行うことができる。
55			上顎第一 大白歯	近遠心側面外形の記入	見本模型の基準点の座標を測定し角柱の各面にマーキングを行い、この基準点をもとに各面の外形の記入を行うことができる。
56			上顎第一 大白歯	近遠心側面外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、外形線の外周を平滑に彫刻を行うことができる。
57			上顎第一 大白歯	頬舌側面外形の記入	外形の記入に必要な道具を準備し、隅角徴を理解し近遠心側面を削った石膏棒に頬舌側面外形の記入を行う。
58			上顎第一 大白歯	頬舌側面外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、咬頭の向き・高さに注意し外形線外周を平滑に彫刻を行う。
59			上顎第一 大白歯	下面観外形の記入	外形の記入に必要な道具を準備し、彎曲徴を理解し、歯を上面から観察し石膏棒の上面より記入を行うことができる。
60			上顎第一 大白歯	下面観外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、彎曲徴を意識し外形線の外周を平滑に彫刻を行うことができる。
61			上顎第一 大白歯	歯頸線の記入・彫刻	近遠心・唇舌側面の歯頸線の違いを理解し歯頸線の記入を行い、エマーゼンスプロファイルが得られるような調整彫刻を行うことができる。
62			上顎第一 大白歯	歯根の彫刻	歯根の彫刻に必要な道具を準備し、根数・歯根の流れに注意し、歯根の彫刻を行うことができる。
63			上顎第一 大白歯	固有咬合面の記入	固有咬合面の記入に必要な道具を準備し、固有咬合面の記入を行うことができる。
64			上顎第一 大白歯	固有咬合面の彫刻	隣在歯を仮想した頬・舌側の歯列曲線に乗るように調整し、彎曲徴を理解し外形を固有咬合面まで丸めを行うことができる。
65			上顎第一 大白歯	辺縁・主溝・副溝の記入	辺縁・主線の記入に必要な道具を準備し、辺縁・主溝・副溝の記入を行うことができる。

66			上顎第一大臼歯	辺縁・主溝・副溝の彫刻	機能咬頭と非機能咬頭の形態や位置関係、辺縁隆線や各面へ移行部の整え方法・天然歯のもつ有機的な造形美の彫刻を行うことができる。
67			上顎第一大臼歯	仕上げ	カービングナイフなどで彫刻面を平滑に整え、歯ブラシやペーパーを用い彫刻した各面を整え全体の仕上げを行うことができる。
68			下顎第一大臼歯	石膏ブロック製作	ゴム印象に石膏注入操作を行い、石膏硬化後、ノギス・砥石を用い石膏棒を規定の寸法に調整を行うことができる。
69			下顎第一大臼歯	番号記入・面取り(設計)	設計した番号を油性マジックで規定の寸法に記入を行い、見本模型の基準点の座標を測定を行い寸法を元に各面に設計を行うことができる。
70			下顎第一大臼歯	面取り(彫刻)	歯の大きさを理解しノギスを用い石膏棒の測定法・切り出しナイフの使用法を身に付け、石膏棒を規定のサイズに彫刻を行うことができる。
71			下顎第一大臼歯	近遠心側面外形の記入	見本模型の基準点の座標を測定をし角柱の各面にマーキングを行い、この基準点をもとに各面の外形の記入を行うことができる。
72			下顎第一大臼歯	近遠心側面外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、外形線の外周を平滑に彫刻を行うことができる。
73			下顎第一大臼歯	頬舌側面外形の記入	外形の記入に必要な道具を準備し、隅角徴を理解し近遠心側面を削った石膏棒に頬舌側面外形の記入を行うことができる。
74			下顎第一大臼歯	頬舌側面外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、咬頭の向き・高さに注意し外形線外周を平滑に彫刻を行うことができる。
75			下顎第一大臼歯	下面観外形の記入	外形の記入に必要な道具を準備し、彎曲徴を理解し、歯を上面から観察し石膏棒の上面より記入を行う。
76			下顎第一大臼歯	下面観外形の彫刻	外形の彫刻に必要な道具を準備し、彎曲徴を意識し外形線の外周を平滑に彫刻を行う。
77			下顎第一大臼歯	歯頸線の記入・彫刻	近遠心・唇舌側面の歯頸線の違いを理解しながら歯頸線の記入を行い、エマージェンスプロファイルが得られるような調整を習得し、彫刻を行うことができる。
78			下顎第一大臼歯	歯根の彫刻	歯根の彫刻に必要な道具を準備し、根数・歯根の流れに注意し、歯根の彫刻を行うことができる。
79			下顎第一大臼歯	固有咬合面の記入・彫刻	固有咬合面の記入を行い、隣在歯を仮想した頬・舌側の歯列曲線に乗るように調整し、彎曲徴を理解し外形を固有咬合面まで丸めを行うことができる。
80			下顎第一大臼歯	辺縁・主溝・副溝の記入	辺縁・主線の記入に必要な道具を準備し、辺縁・主溝・副溝の記入を行うことができる。
81			下顎第一大臼歯	辺縁・主溝・副溝の彫刻	、各隆線の機能や形を考慮し機能咬頭と非機能咬頭の形態や位置関係、辺縁隆線や各面へ移行部の整え方法・天然歯のもつ有機的な造形美の彫刻を行う
82			下顎第一大臼歯	仕上げ	カービングナイフなどで彫刻面を平滑に整え、歯ブラシやペーパーを用い彫刻した各面を整え全体の仕上げを行うことができる。
評価基準			教科書		参考書
提出物	100%	口腔・顎顔面解剖学(医歯薬出版)		歯型彫刻マニュアル(九州医療専門学校)	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	顎口腔機能学	学年	1 年 48 期生
担当者	荻野 洋一郎	期 別	後期
単位数	2 単位	講義・実習	講義
コマ数・時間数	16コマ・32h	専任・兼任	兼任
実務経験	日本補綴歯科学会専門医・指導医の教員が臨床例を示しながら講義を行う。		

一般目標 (GIO)

顎口腔系の機能を営む歯・歯周組織・上下歯列による咬合・上下顎骨・舌骨・顎関節とこれらに付着する筋・口唇などの軟組織・唾液腺・およびこれらの器官に関与する神経系の機能、さらにはこれらの構成単位の障害による機能異常に関する知識を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				顎口腔系の形態	歯列と咬合の関係を説明できる。
2				顎口腔系の機能	顎口腔系の機能を説明できる。
3				顎口腔系の機能	下顎運動の分析に必要な基準点、基準平面を説明できる。
4				顎口腔系の機能	咬合に関与する平面を説明できる。
5				下顎位	下顎位の定義を説明できる。
6				下顎運動	下顎の基本運動の種類と特徴を説明できる。
7			下顎運動		
8			下顎運動	下顎の限界運動を説明できる。	
9				下顎運動	下顎の機能運動を説明できる。
10				歯の接触様式	機能咬頭、非機能咬頭および被蓋関係を説明できる。
11				歯の接触様式	咬頭嵌合位と偏心位の咬合接触を説明できる。
12				歯の接触様式	咬合干渉の種類と原因を説明できる。
13				咬合器	咬合器の種類、機構および使用目的を説明できる。
14				咬合器	フェイスボウの取り扱いを説明できる。
15				咬合器 咬合診査と顎機能障害	咬合器の使用手順と調節方法は説明できる。

16			咬合診査と顎機能障害	咬合検査と顎機能障害を説明できる。
評価基準		教科書		参考書
筆記試験	100%	顎口腔機能学		
	%			
	%			
	%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	歯科理工学		学年	1 年 48 期生	
担当者	川口 稔		期別	前・後期	
単位数	4 単位		講義・実習	講義	
コマ数・時間数	32コマ・64h		専任・兼任	兼任	
実務経験	歯科大学で歯科材料・器械に関する教育経験を有する教員が、技工用材料の特徴および取り扱い方法について実習を行い、講義で習得した知識との整合性と体系化を指導する。				
一般目標 (GIO)					
<p>歯科技工士が製作する技工物を口腔内で十分機能させるためには、製作に用いる歯科材料の基礎的な性質、特徴、使用法について、理解しなければならない。学生は、本講義を受講することによって歯科材料の物理的、化学的、生物学的、機械的性質や特徴を理解するとともに、それらの性質等に基づいた適切な歯科材料の使用法や技工物の製作法について理解する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				歯科材料の性質	物質の構造と結合について説明できる。歯科材料が示す機械的性質について説明できる。
2				歯科材料の性質	歯科材料が示す機械的性質、物理的性質について説明できる。
3				歯科材料の性質	歯科材料が示す物理的性質、化学的性質、生物学的性質について説明できる。
4				印象材	印象とは何か説明できる。 印象材の所要性質を説明できる。 印象材の種類を列記し、分類できる。
5				印象材	各種印象材の組成、特徴について説明できる。
6				模型材	模型の必要性を説明でき、印象と関係づけることができる。 模型材の所要性質について説明できる。
7				模型材	石膏の硬化反応、特徴について説明できる。
8				ワックス	ワックスの種類を列記し、用途について説明できる。 ワックスの組成、性質について説明できる。
9				レジン材料	義歯床用レジンを列記し、分類できる。 義歯床用レジンの所要性質を説明できる。
10				レジン材料	加熱重合レジンの組成と重合反応、物理的、化学的、機械的、生物学的性質について説明できる。
11				レジン材料	常温重合レジンの組成と重合反応について説明できる。 常温重合レジンを用いた義歯製作法について説明できる。
12				レジン材料	その他の常温重合レジン組成、重合反応、義歯製作法について説明できる。 義歯床関連材料の種類を列記でき、特徴について説明できる。
13				レジン材料	歯冠用硬質レジンの組成、性質について説明できる。 歯冠用硬質レジンと金属との接着機構について説明できる。
14				セラミック材料	歯科用陶材の種類を列記し、分類できる。 歯科用陶材の一般的性質について説明できる。

15				セラミック材料	長石系陶材の組成を列記できる。 長石系陶材の築盛について説明できる。 長石系陶材の焼成について説明できる。
16				セラミック材料	金属焼付用陶材の適用について説明できる。 金属焼付用陶材と陶材焼付用合金との結合について説明できる。 金属焼付用陶材と陶材焼付用合金との関連について説明できる。
17				セラミック材料	ジルコニア陶材について説明できる。 その他の陶材について説明できる。
18				歯科用合金	歯科用合金の用途について列記でき、分類できる。 歯科用合金に含まれる金属元素を列記でき、各元素の性質を説明できる。
19				歯科用合金	歯科用合金の所要性質について説明できる。 鋳造用合金の所要性質について説明できる。 加工用合金、鑲付け用合金について説明できる。
20				歯科用合金	合金の種類、組成、用途を列記できるとともに性質を説明できる。
21				歯科用合金	コバルトクロム合金、チタン、チタン合金の組成、用途を列記できるとともに性質を説明できる。 ステンレス鋼について説明できる。
22				鋳造理論	鋳造の手順と鋳造理論の概要を説明できる。 鋳造精度について説明できる。
23				埋没材	埋没材の所要性質について説明できる。 埋没材の種類と組成を列記できるとともに、成分の役割を説明できる。
24				埋没材	石膏系・非石膏系埋没材の性質と埋没操作について説明できる。
25				埋没操作	原型(ワックスパターン)の作製から埋没までの操作を列記でき、注意点等について説明できる。
26				鋳造操作	合金の融解方法、鋳造機について列記でき、各々の特徴について説明できる。
27				鋳造操作	鋳造欠陥について列記でき、各々原因と対策について説明できる。
28				金属の接合	歯科用合金の鑲付け、溶接、鋳接について各々の方法、特徴について説明できる。
29				金属の加工・熱処理	歯科用合金の塑性加工、熱処理について、そのメカニズムと合金の状態について説明できる。
30				修復物の研磨	研磨の意義について説明でき、修復物に応じた研磨方法と材料・器具を列記し、各々について説明できる。
31				新しい加工技術と修復物の安定性	CAD/CAM、3Dプリンターについてその原理、材料について説明できる。
32				その他の歯科材料	合着材、接着剤、成形修復材、インプラント材料について説明できる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	70%	最新歯科技工士教本 歯科理工学 全国歯科技工教育協議会編 医歯薬出版	
小テスト	20%		
平常点	10%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

科目名	歯科理工学実習	学年	1 年 48 期生
担当者	川口 稔	期別	前期・後期
単位数	3 単位	講義・実習	実習
コマ数・時間数	58コマ・116h	専任・兼任	兼任
実務経験	歯科大学で歯科材料・器械に関する教育経験を有する教員が、技工用材料の特徴および取り扱い方法について実習を行い、講義で習得した知識との整合性と体系化を指導する。		

一般目標 (GIO)

歯科技工で使用される歯科材料は、日進月歩で進化しているため、歯科材料についての十分な知識と正しい取り扱い方法の習得は歯科技工士の業務に非常に重要である。そこで本実習では、講義で修得した知識を基にして各種歯科材料の正しい取り扱い方法を学び、技工物作製に向けて必要となる知識と技術の基本を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				歯科材料の性質 1	精密測定器具の取り扱い方法を説明できる。 歯科用合金の引張り強さを説明できる。
2				歯科材料の性質 1	
3				歯科材料の性質 1	
4				歯科材料の性質 1	
5				歯科材料の性質 2	歯科用高分子材料の曲げ強さを説明できる。 硬さ試験の理論と測定方法を説明できる。
6				歯科材料の性質 2	
7				歯科材料の性質 2	
8				歯科材料の性質 2	
9				印象材の取り扱い方法	各印象材の操作時間に違いを説明できる。 印象材の弾性ひずみと永久ひずみを説明できる。
10				印象材の取り扱い方法	
11				印象材の取り扱い方法	
12				印象材の取り扱い方法	
13				模型材の取り扱い方法	歯科用石こうの硬化時間の違いを説明できる。 各種石こうの硬化膨張と圧縮強さの違いを説明できる。
14				模型材の取り扱い方法	
15				模型材の取り扱い方法	

16				模型材の取り扱い方法	
17				パターン材の取り扱い方法	歯科用ワックスについて変形と応力の関係について説明できる。 ワックスの形成方法と熱収縮との関係について説明できる。
18				パターン材の取り扱い方法	
19				パターン材の取り扱い方法	
20				パターン材の取り扱い方法	
21				鋳造用鋳型材の取り扱い方法1	石こう系鋳型材の硬化時間と硬化膨張を説明できる。
22				鋳造用鋳型材の取り扱い方法1	
23				鋳造用鋳型材の取り扱い方法1	
24				鋳造用鋳型材の取り扱い方法1	
25				鋳造用鋳型材の取り扱い方法2	石こう系埋没材の加熱膨張について説明できる。
26				鋳造用鋳型材の取り扱い方法2	
27				鋳造用鋳型材の取り扱い方法2	
28				鋳造用鋳型材の取り扱い方法2	
29				義歯用レジンの取り扱い方法1	アクリルレジンの加熱・常温重合方法を説明できる。 義歯作製に用いる関連器材の種類と特徴を説明できる。
30				義歯用レジンの取り扱い方法1	
31				義歯用レジンの取り扱い方法1	
32				義歯用レジンの取り扱い方法1	
33				義歯用レジンの取り扱い方法2	アクリルレジンの重合収縮や変形による適合性への影響を説明できる。
34				義歯用レジンの取り扱い方法2	
35				義歯用レジンの取り扱い方法2	
36				義歯用レジンの取り扱い方法2	
37				義歯用レジンの取り扱い方法3	アクリルレジンと人工歯との接着性に影響する因子を説明できる。
38				義歯用レジンの取り扱い方法3	
39				義歯用レジンの取り扱い方法3	
40				義歯用レジンの取り扱い方法3	

41				鑄造用材料の取り扱い方法1	精密鑄造に用いる関連器材の種類と特徴を説明できる。
42				鑄造用材料の取り扱い方法1	
43				鑄造用材料の取り扱い方法1	
44				鑄造用材料の取り扱い方法1	
45				鑄造用材料の取り扱い方法2	鑄型材の膨張による鑄造収縮の補償理論を説明できる。
46				鑄造用材料の取り扱い方法2	
47				鑄造用材料の取り扱い方法2	
48				鑄造用材料の取り扱い方法2	
49				鑄造用材料の取り扱い方法3	鑄造欠陥の発生原因とその防止方法を説明できる。
50				鑄造用材料の取り扱い方法3	
51				鑄造用材料の取り扱い方法3	
52				鑄造用材料の取り扱い方法3	
53				ロウ付け用材料の取り扱い方法	埋没ロウ付け法に用いる関連器材の種類と特徴を説明する。
54				ロウ付け用材料の取り扱い方法	
55				ロウ付け用材料の取り扱い方法	
56				ロウ付け用材料の取り扱い方法	
57				実習のまとめ	実習で使用した材料の特徴と正しい操作方法を説明できる。
58				実習のまとめ	
評価基準				教科書	参考書
筆記試験	60%	最新歯科技工士教本 歯科理工学			
実技試験	40%	歯科理工学指針			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	有床義歯技工学	学年	1 年 48 期生
担当者	荻野 洋一郎	期 別	前期
単 位 数	3 単位	講義 ・ 実習	講義
コマ数・時間数	24コマ・48h	専任 ・ 兼任	兼任
実務経験	日本補綴歯科学会専門医・指導医の教員が臨床例を示しながら講義を行う。		

一般目標 (GIO)

歯列の欠損補綴治療における有床義歯技工学の意義と目的を理解し、有床義歯の種類と適応症を把握する。
 全部床義歯・部分床義歯製作に伴う技工操作に関する知識を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				有床義歯技工学概説	有床義歯技工学の意義と目的を説明できる。
2				有床義歯技工学概説	有床義歯の種類・特徴・適応症を列挙できる。
3				全部床義歯の特性	全部床義歯の構造と特性を説明できる。
4				全部床義歯の製作順序	全部床義歯の製作順序を説明できる。
5				全部床義歯製作に伴う技工作業	全部床義歯の印象採得に伴う技工操作を説明できる。
6				全部床義歯製作に伴う技工作業	全部床義歯の咬合採得に伴う技工操作を説明できる。
7				全部床義歯製作に伴う技工作業	全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成を説明できる。
8				全部床義歯製作に伴う技工作業	全部床義歯の蝕義歯埋没と重合操作を説明できる。
9				全部床義歯製作に伴う技工作業	全部床義歯の咬合咬合器装着、人工歯の削合および義歯床の研磨を説明できる。
10				全部床義歯製作に伴う技工作業	
11				部分床義歯の特性	部分床義歯の構造と特性を説明できる。
12				部分床義歯の製作順序	部分床義歯の製作順序を説明できる。
13				部分床義歯の構成要素	部分床義歯の構成要素の構造と役割を説明できる。
14				部分床義歯の構成要素	

15				部分床義歯製作に伴う技工作業	部分床義歯の印象採得に伴う技工操作を説明できる。
16				部分床義歯製作に伴う技工作業	
17				部分床義歯製作に伴う技工作業	部分床義歯の人工歯排列と歯肉形成を説明できる。部分床義歯の蝕義歯埋没、重合および研磨を説明できる。
18				部分床義歯製作に伴う技工作業	
19				有床義歯の修理	有床義歯の破折と破損の原因を理解し、その修理方法を説明できる。
20				有床義歯の修理	
21				リベースとリライン	リベース・リラインの目的と方法を説明できる。
22				リベースとリライン	
23				オーバーデンチャー	オーバーデンチャーの目的と種類を説明できる。
24				金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法を説明できる。
評価基準				教科書	参考書
筆記試験	100%	顎口腔機能学			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	有床義歯技工学(実習)	学年	1 年 48 期生
担当者	福島 淳司	期別	前期・後期
単位数	9 単位	講義・実習	実習
コマ数・時間数	144コマ・288h	専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院・歯科技工所で3年間実務経験のある教員が教育を行う。		

一般目標(GIO)

個人トレーの製作： 精密な印象採得をするために、全部床義歯の上顎、部分床義歯の下顎個人トレーの製作法と、製作に使用される器具、材料等の操作を修得する。

総義歯の製作： 総義歯を製作するために、咬合床の製作と中心咬合位における人工歯の排列およびレジン床の重合、研磨を修得する。

部分床義歯維持装置の製作： 部分床歯を製作するために、維持装置・連結子（鋳造バー、鋳造クラスプ・屈曲クラスプ）の製作法を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1・2				個人トレー 模型製作・着脱方向の決定	真空攪拌機の使用方法を身に付け、気泡が入らないようにゴム印象に石膏注入操作ができる。サベヤーの付属品の使用目的を理解し、着脱方向決定ができる。
3・4				個人トレー 床外形線の記入 レー外形線の記入	床可動粘膜と不動粘膜の境界線を認識し小帯を避けて床外形線的位置を点線で描記ができる。解剖学的印象と機能印象の違いを理解しトレー外形線位置を実線で描記ができる
5・6				個人トレー 模型のリリース ロックアウト	リリースの目的を理解し、絆創膏でリリースができる。ブロックアウトすべき位置を知るためにサベヤーの操作ができる。
7・8				個人トレー スペーサーの圧接 トッパの付与	スペーサーの目的を理解し、パラフィンワックスの圧接操作を身に付け均等な厚みに圧接ができる。ストップバーの目的と付与位置理解しストップバーの付与ができる。
9・10				個人トレー ボクシング レー材料の圧接	ボクシングの使用目的を理解しRC-Waxでボクシングができる。トレー材の操作方法を身に付け、気泡が入らないように均等な厚みに圧接ができる。
11・12				個人トレー ボクシング レー材料の圧接	ボクシングの使用目的を理解しRC-Waxでボクシングができる。トレー材の操作方法を身に付け、気泡が入らないように均等な厚みに圧接ができる。
13・14				個人トレー ハンドルの製作 磨(外形・厚み調節)	印象採得時に口唇の筋形成を妨げない形態を創造できる。印象採得法を認識し外形線及び厚み調整ができる。
15・16				個人トレー ハンドルの製作 磨(外形・厚み調節)	印象採得時に口唇の筋形成を妨げない形態を創造できる。印象採得法を認識し外形線及び厚み調整ができる。
17・18				個人トレー 研磨(外形・厚み調節) 磨(中研磨)	印象採得法を認識し外形線及び厚み調整ができる。中研磨の目的を理解し研磨ができる。
19・20				個人トレー 研磨(外形・厚み調節) 磨(中研磨)	印象採得法を認識し外形線及び厚み調整ができる。中研磨の目的を理解し研磨ができる。
21・22				個人トレー ハンドルの装着 号刻入・洗浄	口唇の筋形成を妨げない位置にハンドルの取り付けができる。トレーにNo刻入及び模型の洗浄ができる。
23・24				個人トレー ハンドルの装着 号刻入・洗浄	口唇の筋形成を妨げない位置にハンドルの取り付けができる。トレーにNo刻入及び模型の洗浄ができる。
25・26				総義歯 模型製作 線の記入	床外形 模型ゴム枠に石膏を流しゴム枠の高さにトリーマーを使用して模型基底面の調整ができる。床外形線位置を実線で描記ができる。
27・28				総義歯 基準線の記入 型の緩衝	模 解剖学的指標をもとに正中線、歯槽頂線を模型に点線で描記ができる。緩衝すべき部位にリリースができる。
29・30				総義歯 ポストダムの付与 基礎床の製作1	ポストダムの目的を理解し、模型を削削ができる。基礎床の目的を理解し、基礎床の製作ができる。
31・32				総義歯 基礎床の製作2 堤の製作1	咬合 基礎床の目的を理解し、基礎床の製作ができる。咬合堤の平均的な基準の寸法を知り、ベースの築盛ができる。
33・34				総義歯 咬合堤の製作2・3	咬合堤の平均的な基準の寸法で、位置の調整ができる。咬合堤の平均的な基準の寸法で、高さの調整ができる。

35・36			総義歯	咬合堤の製作4・5		咬合堤の平均的な基準の寸法で、幅の調整ができる。咬合堤の平均的な基準の寸法で、角度の調整ができる。
37・38			総義歯	咬合堤の製作6 基準線の印記	標	咬合堤のアーチ調整ができる。標準線の目的を理解し、人工歯選択の標準線の記入ができる
39・40			総義歯	スプリットキャスト付与 合器装着	咬	スプリットキャストの目的を理解し、模型基底面を削除ができる。平均値咬合器への上顎模型装着ができる。
41・42			総義歯	咬合器装着 歯排列(上顎前歯部)	人工	平均値咬合器への下顎模型装着ができる。中心咬合位における上顎前歯部の人工歯排列ができる。
43・44			総義歯	人工歯排列(上顎前歯部)		中心咬合位における上顎前歯部の人工歯排列ができる。
45・46			総義歯	人工歯排列(上顎前歯部) 人工歯排列(上顎臼歯部)	人	中心咬合位における上顎前歯部の人工歯排列ができる。中心咬合位における上顎臼歯部の人工歯排列ができる
47・48			総義歯	人工歯排列(上顎臼歯部)		中心咬合位における上顎臼歯部の人工歯排列ができる。
49・50			総義歯	人工歯排列(上顎臼歯部)		中心咬合位における上顎臼歯部の人工歯排列ができる。
51・52			総義歯	人工歯排列(下顎臼歯部)		中心咬合位における下顎臼歯部の人工歯排列ができる。
53・54			総義歯	人工歯排列(下顎臼歯部)		中心咬合位における下顎臼歯部の人工歯排列ができる。
55・56			総義歯	人工歯排列(下顎臼歯部) 人工歯排列(下顎前歯部)	人	中心咬合位における下顎臼歯部の人工歯排列ができる。中心咬合位における下顎前歯部の人工歯排列ができる。
57・58			総義歯	人工歯排列(下顎前歯部)		中心咬合位における下顎前歯部の人工歯排列ができる。
59・60			総義歯	歯肉形成(上顎)		義歯床の唇・頬側・舌側等の形態をできるだけ自然に近い状態にするとともに、義歯の機能を向上させるため齶義歯の表面形態の形成ができる。
61・62			総義歯	歯肉形成(上下顎)		義歯床の唇・頬側・舌側等の形態をできるだけ自然に近い状態にするとともに、義歯の機能を向上させるため齶義歯の表面形態の形成ができる。
63・64			総義歯	歯肉形成(下顎)		義歯床の唇・頬側・舌側等の形態をできるだけ自然に近い状態にするとともに、義歯の機能を向上させるため齶義歯の表面形態の形成ができる。
65・66			総義歯	埋没		齶義歯のワックス部分を床用レジンに置換するため準備を行い、一次埋没ができる。
67・68			総義歯	埋没		二次埋没ができる。三次埋没ができる。
69・70			総義歯	開輪・流蠟 ン填入	レジ	開輪・流蠟ができる。レジン填入タイミング(もち状期)に填入操作ができる。
71・72			総義歯	重合操作		レジン重合の温度スケジュール管理ができる。
73・74			総義歯	フラスク開輪		上顎模型を壊さないようにフラスク開輪ができる。下顎模型を壊さないようにフラスク開輪ができる。
75・76			総義歯	咬合器再装着 工歯の削合	人	スプリットキャストを用いて咬合器再装着ができる。人工歯の削合の目的及びBULLの法則を理解し削合ができる。
77・78			総義歯	人工歯の削合 磨1	研	人工歯の削合の目的及びBULLの法則を理解し削合ができる。床縁及び口蓋部等の厚み調整操作ができる。
79・80			総義歯	研磨1		床縁及び口蓋部等の厚み調整操作ができる。
81・82			総義歯	研磨2		義歯口蓋部、床縁等の研磨ができる。
83・84			総義歯	研磨3		最終仕上げ研磨、洗浄ができる。
85・86			維持装置	模型製作 方向の決定	着脱	模型ゴム枠に石膏を流しゴム枠の高さにトリーマー使用して模型基底面の調整ができる。サベヤーの使用目的を説明ができる。
87・88			維持装置	サベイング 尖の位置決定	鉤	歯鉤の歯軸方向及びアンダーカットの測定ができる。鉤尖アンダーカット量を認識し位置決定を行うことができる。
89・90			維持装置	パー・クラスプ外形線の記入		パー、クラスプの目的を理解し、規格寸法の描記ができる。
91・92			維持装置	パー・クラスプ外形線の記入		パー、クラスプの目的を理解し、規格寸法の描記ができる。
93・94			維持装置	床外形線の記入		咬合圧の負担域を理解し総義歯との床外形線を実線で描記ができる。

95・96			維持装置	ブロックアウト リリーフ	ブロックアウトの必要性を理解し、アンダーカット部にブロックアウトができる。総義歯とのリリーフ部位の違いを理解し、緩衝を行う。
97・98			維持装置	線鉤の屈曲	線鉤の屈曲ができる。
99・100			維持装置	線鉤の屈曲 ワックスステップの付与	線鉤の屈曲ができる。
101・102			維持装置	ワックスステップの付与	バラタルバーを形成するパターンレジンワックスステップを行うことができる。
103・104			維持装置	ワックスステップの付与	リンガルバーを形成するパターンレジンワックスステップを行うことができる。
105・106			維持装置	ワックスステップの付与	クラスプを形成するパターンレジンワックスステップを行うことができる。
107・108			維持装置	ワックスステップの付与	クラスプを形成するパターンレジンワックスステップを行うことができる。
109・110			維持装置	パターンレジン築盛(Pバー)	バーを形成するパターンレジン築盛ができる。
111・112			維持装置	パターンレジン築盛(クラスプ)	クラスプを形成するパターンレジン築盛ができる。
113・114			維持装置	パターンレジン築盛(クラスプ)	クラスプを形成するパターンレジン築盛ができる。
115・116			維持装置	パターンレジン築盛(クラスプ)	クラスプを形成するパターンレジン築盛ができる。
117・118			維持装置	パターンレジン形態修正	パターンレジンで築盛されたバー・クラスプを規程の寸法に形態修正ができる。
119・120			維持装置	パターンレジン形態修正	パターンレジンで築盛されたバー・クラスプを規程の寸法に形態修正ができる。
121・122			維持装置	パターンレジン形態修正	パターンレジンで築盛されたバー・クラスプを規程の寸法に形態修正ができる。
123・124			維持装置	パターンレジン形態修正	パターンレジンで築盛されたバー・クラスプを規程の寸法に形態修正ができる。
125・126			維持装置	耐火型製作	耐火模型の模型印象を行うことができる。耐火模型の耐火模型材注入を行うことができる。
127・128			維持装置	耐火型製作	耐火模型の模型乾燥処理ができる。
129・130			維持装置	ワックスアップ	直接法によるクラスプ製作ができる。
131・132			維持装置	ワックスアップ	直接法によるクラスプ製作ができる。
133・134			維持装置	埋没	耐火模型の埋没操作ができる。
135・136			維持装置	埋没	パターンレジンクラスプ・バーの埋没操作ができる。
137・138			維持装置	鋳造	鋳造操作ができる。
139・140			維持装置	研磨1・2	バー、クラスプの形態修正荒研磨ができる。バー、クラスプの中研磨ができる。
141・142			維持装置	研磨2・3	バー、クラスプの中研磨・最終仕上げ研磨ができる。
143・144			維持装置	研磨3	バー、クラスプの最終仕上げ研磨、洗浄ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		0%			歯科技工学実習帳 有床義歯技工学 有床実習マニュアル
実技試験		0%			
提出物		100%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	歯冠修復技工学	学年	1 年 48 期生
担当者	熱田 生	期 別	後期
単 位 数	3 単 位	講義・実習	講義
コマ数・時間数	24コマ・48h	専任・兼任	兼任
実務経験	日本補綴歯科学会専門医・指導医の教員が臨床例を示しながら講義を行う。		

一般目標 (GIO)

補綴治療における歯冠修復技工学の意義と目的を理解し、歯冠修復における種類と適応症を把握する。
歯冠修復補綴装置の製作法を理解する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				歯冠修復技工学概説	歯冠修復技工学の意義と目的を説明できる。
2				歯冠修復技工学概説	歯科治療における一般的な流れを説明できる。
3				クラウンの概要と種類	クラウンの意義、特徴および用途を説明できる。
4				クラウンの概要と種類	部分・全部被覆冠の種類と特徴を説明できる。
5				ブリッジの概要と種類	ブリッジの特徴と構成要素を説明できる。
6				ブリッジの概要と種類	ブリッジの種類を説明できる。
7				クラウンとブリッジの具備要件(1)	クラウンブリッジの生物学的要件を説明できる。
8				クラウンとブリッジの具備要件(1)	
9				クラウンとブリッジの具備要件(2)	クラウンブリッジの構造力的・化学的・審美的要件を説明できる。
10				クラウンとブリッジの具備要件(2)	
11				クラウンとブリッジの製作(1)	クラウンブリッジの製作順序を説明できる。
12				クラウンとブリッジの製作(1)	印象材の種類と特徴を説明できる。
13				クラウンとブリッジの製作(2)	支台築造の意義と目的を説明する。
14				クラウンとブリッジの製作(2)	テンポラリークラウン・ブリッジの意義と目的、製作法を説明できる。
15				クラウンとブリッジの製作(3)	作業用模型の意義と目的、製作法を説明できる。

16				クラウンとブリッジの製作(3)	ワックスアップの種類と方法を説明できる。
17				クラウンとブリッジの製作(4)	埋没と鋳造、研磨の意義と目的を説明できる。
18				クラウンとブリッジの製作(4)	
19				歯冠修復物と部分被覆冠	部分被覆冠の種類と特徴、製作法を説明できる。
20				歯冠修復物と部分被覆冠	
21				全部被覆冠とブリッジ	全部被覆冠の種類と特徴、製作法を説明できる。
22				全部被覆冠とブリッジ	レジン前装冠、陶材焼付冠などの特徴と製作法を説明できる。
23				インプラント	インプラント治療の目的と種類、製作法について説明できる。
24				CAD/CAMシステム	CAD/CAMシステムについて説明できる。
評価基準				教科書	参考書
筆記試験		100%	最新歯科技工教本 歯冠修復技工学		
		%			
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	歯冠修復技工学(実習)	学年	1 年 48 期生
担当者	福島淳司	期別	後期
単位数	6 単 位	講義・実習	実習
コマ数・時間数	94コマ・188h	専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院・歯科技工所で3年間実務経験のある教員が教育を行う。		

一般目標 (GIO)

歯冠の一部が齶蝕などで欠損した場合に、修復するインレー・コアの製作方法を習得する。

少数の歯の欠損に対して、欠損部に歯の歯冠形態に近い人工歯を連結修復する臼歯固定性ブリッジ(Br)の製作方法を習得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				インレー 石膏流し	ゴム枠に真空練和器を用いて石膏を流しこむことができる。
2				インレー 石膏模型の厚み調整	模型の厚み調整を行う。ダウエルピンの植立位置を模型に記入する操作ができる。
3				インレー 回転防止溝、維持溝の付与	回転防止溝、維持溝の設置を行うことができる
4				インレー ダウエルピンの植立	回転防止溝、維持溝の必要性を理解し、設置を行う。ピンドリルでダウエルピンの穴あけができる
5				インレー シリコンフォーマーに二次石膏を注入する	二次石膏の目的を理解する。フォーマーへの石膏注入を行う。一次石膏と二次石膏の境界線出しができる。
6				インレー 分割復位式模型の分割	分割設計線の記入を行う。糸鋸で支台歯、隣在歯の分割ができる。
7				インレー 歯頸部のトリミング	支台歯マージン部のトリミングができる。
8				インレー マージン記入	マージンの記入を行う。表面処理ができる。
9				インレー 咬合器装着	作業模型の咬合器装着ができる。
10				インレー 咬合器装着	作業模型の咬合器装着ができる。
11				インレー 蝟型採得	インレーの蝟型採得ができる。
12				インレー 蝟型採得	インレーの蝟型採得ができる。
13				インレー スプルー線の植立	蝟型にスプルー線の植立ができる。
14				インレー 埋没	クリストバライト埋没材を使用して、蝟型埋没ができる。
15				インレー 鋳造	遠心鋳造機を使用して鋳造ができる。
16				インレー 割り出し・支台歯への試適	鋳造後の割り出しを行う。支台歯への試適ができる。
17				インレー コンタクトポイントの調整	隣在歯とのコンタクトポイントの調整ができる。
18				インレー 咬合の調整	対合歯との咬合の調整ができる。

19				インレー	中研磨	インレーの中研磨ができる。
20				インレー	中研磨	インレーの咬合面研磨ができる。
21				インレー	中研磨	インレーの艶出し研磨ができる。
22				インレー	研磨・最終試適	インレーの最終研磨を行い最終試適ができる。
23				インレー	最終試適・完成提出	最終試適ができる。
24				メタルコア	蠟型採得	メタルコアの蠟型採得ができる。
25				メタルコア	蠟型採得	メタルコアの蠟型採得ができる。
26				メタルコア	埋没	クリストバライト埋没材を使用して、蠟型埋没ができる。
27				メタルコア	鋳造	遠心鋳造機を使用して鋳造ができる。
28				メタルコア	割り出し・支台歯への試適	鋳造後の割り出しを行う。支台歯への試適ができる。
29				メタルコア	形態修正	メタルコアの形態修正ができる。
30				メタルコア	中研磨	メタルコアの中研磨ができる。
31				メタルコア	研磨・最終試適	メタルコアの最終試適ができる。
32				全部鋳造冠	石膏流し	真空練和器の操作を行う。ゴム棒に石膏を流しこむ作業ができる。
33				全部鋳造冠	石膏模型の厚み調整	模型の厚み調整を行う。ダウエルピンの植立位置を模型に記入する操作ができる。
34				全部鋳造冠	回転防止溝、維持溝の付与	回転防止溝、維持溝の設置ができる。
35				全部鋳造冠	ダウエルピンの植立	回転防止溝、維持溝の必要性を理解し、設置を行う。ピンドリルでダウエルピンの穴あけができる。
36				全部鋳造冠	石膏分離材の塗布	ダウエルピンの目的を理解しダウエルピン植立ができる。
37				全部鋳造冠	シリコンフォーマーに二次石膏を注入する	二次石膏の目的を理解しフォーマーへの石膏注入ができる。一次石膏と二次石膏の境界線出しができる。
38				全部鋳造冠	分割復位式模型の分割	分割設計線の記入ができる。糸鋸で分割ができる。
39				全部鋳造冠	歯頸部のトリミング	トリミングの目的を理解しトリミングができる。
40				全部鋳造冠	歯頸部のトリミング	トリミングの目的を理解しトリミングができる。
41				全部鋳造冠	マージン記入	マージンの記入ができる。表面処理の目的を理解し表面処理ができる。
42				全部鋳造冠	咬合器装着	作業模型の咬合器装着ができる。
43				全部鋳造冠	咬合器装着	作業模型の咬合器装着ができる。
44				全部鋳造冠	蠟型採得	蠟型採得ができる。
45				全部鋳造冠	蠟型採得	蠟型採得ができる。

46			全部鑄造冠	スプルー線の植立	スプルー植立ができる。
47			全部鑄造冠	埋没	蠟型埋没ができる。
48			全部鑄造冠	鑄造	鑄造ができる。
49			全部鑄造冠	割り出し・支台歯への試適	鑄造後の割り出後、支台歯への試適ができる。
50			全部鑄造冠	支台歯への試適	支台歯への試適ができる。
51			全部鑄造冠	コンタクトポイントの調整	コンタクトポイントの調整ができる。
52			全部鑄造冠	咬合の調整	対合歯との咬合の調整ができる。
53			全部鑄造冠	中研磨	中研磨ができる。
54			全部鑄造冠	研磨・最終試適	仕上げ研磨ができる。最終試適ができる。
55			ブリッジ	石膏流し	真空練和器の操作を行う。ゴム枠に石膏を流しこむ作業ができる。
56			ブリッジ	石膏模型の厚み調整	模型の厚み調整を行う。ダウエルピンの植立位置を模型に記入する操作ができる。
57			ブリッジ	回転防止溝、維持溝の付与	回転防止溝、維持溝の設置ができる。
58			ブリッジ	ダウエルピンの植立	回転防止溝、維持溝の必要性を理解し、設置を行う。ピンドリルでダウエルピンの穴あけができる。
59			ブリッジ	石膏分離材の塗布	ダウエルピンの目的を理解しダウエルピン植立ができる。
60			ブリッジ	シリコンフォーマーに二次石膏を注入する	二次石膏の目的を理解しフォーマーへの石膏注入ができる。一次石膏と二次石膏の境界線出しができる。
61			ブリッジ	分割復位式模型の分割	分割設計線の記入ができる。糸鋸で分割ができる。
62			ブリッジ	歯頸部のトリミング	トリミングの目的を理解しトリミングができる。
63			ブリッジ	歯頸部のトリミング	トリミングの目的を理解しトリミングができる。
64			ブリッジ	欠損部の調整	欠損部の粘膜調整ができる。
65			ブリッジ	マージン記入	マージンの記入ができる。表面処理の目的を理解し表面処理ができる。
66			ブリッジ	マージン記入	マージンの記入ができる。表面処理の目的を理解し表面処理ができる。
67			ブリッジ	咬合器装着	作業模型の咬合器装着ができる。
68			ブリッジ	咬合器装着	作業模型の咬合器装着ができる。
69			ブリッジ	蠟型採得	橋脚部の蠟型採得ができる。
70			ブリッジ	蠟型採得	橋脚部の蠟型採得ができる。
71			ブリッジ	蠟型採得	橋脚部の蠟型採得ができる。
72			ブリッジ	蠟型採得	橋脚部の蠟型採得ができる。
73			ブリッジ	蠟型採得	橋脚部の蠟型採得ができる。
74			ブリッジ	蠟型採得(ポンティック製作)	蠟型採得(ポンティック)ができる。
75			ブリッジ	蠟型採得(ポンティック製作)	蠟型採得(ポンティック)ができる。

76				ブリッジ	蝟型採得(ポンティック製作)	蝟型採得(ポンティック)ができる。
77				ブリッジ	蝟型採得(連結部)	蝟型採得(連結)ができる。
78				ブリッジ	蝟型採得(連結部)	蝟型採得(連結)ができる。
79				ブリッジ	蝟型採得(窓開け)	蝟型採得(連結)ができる。
80				ブリッジ	スプルー線の植立	スプルー植立ができる。
81				ブリッジ	埋没	蝟型埋没ができる。
82				ブリッジ	鋳造	鋳造ができる。
83				ブリッジ	割り出し・支台歯への試適	鋳造後の割り出後、支台歯への試適ができる。
84				ブリッジ	支台歯への試適	支台歯への試適ができる。
85				ブリッジ	コンタクトポイントの調整	コンタクトポイントの調整ができる。
86				ブリッジ	咬合の調整	対合歯との咬合の調整ができる。
87				ブリッジ	咬合の調整	対合歯との咬合の調整ができる。
88				ブリッジ	中研磨	Brの中研磨ができる。
89				ブリッジ	中研磨	Brの中研磨ができる。
90				ブリッジ	レジンフェーシング	Brポンティックのレジンフェーシングができる。
91				ブリッジ	レジンフェーシング	Brポンティックのレジンフェーシングができる。
92				ブリッジ	研磨	Brの仕上げ研磨ができる。
93				ブリッジ	研磨・最終試適	Brの仕上げ研磨ができる。最終試適ができる。
94				ブリッジ	最終試適・完成提出	最終試適ができる。
評価基準				教科書		参考書
提出物		100%		歯科技工学実習帳 歯冠修復歯技工学		
		%		修復実習マニュアル インレー・コア		
		%		修復実習マニュアル 全部鋳造冠		
		%		修復実習マニュアル 臼歯固定性ブリッジ(Br)		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	歯科技工実習	学年	1 年 48 期生
担当者	福島淳司	期別	後期
単位数	2 単位	講義・実習	実習
コマ数・時間数	35コマ・70h	専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院・歯科技工所で3年間実務経験のある教員が教育を行う。		

一般目標 (GIO)

作業用模型の製作方法を取得する。

臨床的実習模型を使ってインレーの製作方法を取得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1・2				模型製作 石膏の注入	気泡の混入に注意しながら、石膏を一方向から少量ずつ注入を行う。
3・4				模型製作 模型基底面の調整	模型の基底部をトリマーで平らに削除を行う。
5・6				模型製作 ダウエルピンの植立	着脱部の底面中央にピンドリルにてダウエルピンの入る孔を掘り込み、瞬間接着剤で歯列模型に接着を行う。
7・8				模型製作 回転防止溝の形成 維持溝の付与	回転防止溝の形成、維持溝の付与を行う。
9・10				模型製作 二次石膏注入	歯列基底面に分離材を薄く塗布し、シリコンフォーマーを用いて台付けを行う。
11・12				模型製作 歯型の分割	歯型のフィニッシュラインを傷つけることのないよう、石膏鋸を使用して歯型が抜き差しできるよう分割を行う。
13・14				模型製作 トリミング	バー、カッターなどで歯型のフィニッシュラインを傷つけないように歯肉部の石膏の削除を行う。
15				模型製作 マージン記入	マージンラインを軟らかい鉛筆でマークし、その上から界面硬化剤の塗布を行う。

16・17			臨床模型	石膏の注入 模型基底面の調整	気泡の混入に注意しながら、石膏を一方から少量ずつ注入を行う。模型の基底部をトリマーで平らに削除を行う。
18・19			臨床模型	ダウエルピンの植立 回転防止溝、維持溝の付与	着脱部の底面中央にピンドリルにてダウエルピンの入る孔を掘り込み、瞬間接着剤で歯列模型に接着を行う。回転防止溝の形成、維持溝の付与を行う。
20・21			臨床模型	台付け 歯型の分割	歯列基底面に分離材を薄く塗布し、シリコンフォーマーを用いて台付けを行う。歯型のフィニッシュラインを傷つけることのないよう、石膏鋸を使用して歯型が抜き差しできるよう分割を行う。
22・23			臨床模型	トリミング マージン記入	バー、カッターなどで歯型のフィニッシュラインを傷つけないように歯肉部の石膏の削除を行う。マージンラインを軟らかい鉛筆でマークし、その上から界面硬化剤の塗布を行う。
24・25			臨床模型	咬合器装着	模型基底面に石膏による装着を確実にするためにバーなどでアンダーカットを付与し、咬合器装着を行う。
26・27			臨床模型	歯冠形態の回復	対合歯との咬合関係を考慮するとともに反対側同名歯と同じ形態とし、隣在歯など残存歯と調和させ、歯冠形態をワックスにて回復を行う。
28・29			臨床模型	スプルー線の植立 埋没	スプルー線植立後、円錐台に植立し埋没を行う。
30・31			臨床模型	鋳造	ワックスパターンを加熱焼却器にて焼却し、遠心鋳造法で金属を鋳込む作業を行う。
32・33			臨床模型	コンタクトポイントの調整 咬合調整	隣在歯とのコンタクト調整、対合歯との咬合調整を行う。
34・35			臨床模型	研磨	中研磨、最終研磨を行う。
評価基準			教科書		参考書
提出物	100%	歯科技工学実習帳 歯冠修復歯技工学			
	%	修復実習マニュアル 模型作成			
	%	修復実習マニュアル インレー・コア			
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	歯科技工実習	学年	2 年 47 期生
担当者	田口 聖治	期別	前期
単位数	5 単位	講義・実習	実習
コマ数・時間数	75コマ・150h	専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院で2年間実務経験のある教員が教育を行う。		

一般目標 (GIO)

模型製作: 基礎実習課題製作の為に模型製作をまとめて行うことによって、製作効率の良い模型製作方法を修得する。

実技評価試験Ⅰ: 実技評価試験に合格するために、中心咬合位における総義歯人工歯の排列および歯肉形成を180分で製作完成させる技術を修得する。

実技評価試験Ⅱ: 実技評価試験に合格するために、人工歯排列・歯肉形成と臼歯部全部鑄造冠ロウ型採得を規程時間に製作完成する技術を修得する。

国家試験対策: 国家試験の実技試験に合格するために、矯正ベンディングと歯牙デッサン及び歯型彫刻を規程時間に製作完成する技術を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1・2				模型製作(基礎実習) 模型製作(修復実習模型一次石膏模型) MB/HR/Br./テック	模型を製作するにあたり、支台歯がある一次石膏部分に気泡を混入させないように石膏注入ができる。
3・4				模型製作(基礎実習) 模型製作(修復実習模型一次石膏模型) CAD/F-C/トレーニング模型	模型を製作するにあたり、支台歯がある一次石膏部分に気泡を混入させないように石膏注入ができる。
5・6				模型製作(基礎実習) 模型製作(ダウエルピン植立) (二次石膏注入模型製作)	分割復位式模型を製作するためにダウエルピンの植立ができる。分割復位式模型を製作するために二次石膏注入ができる。
7・8				模型製作(基礎実習) 模型製作(支台歯分割) (トリミング)	支台歯が歯列から着脱できるように分割ができる。ロウ型採得ができるように邪魔な歯肉部分を削除ができる。
9・10				模型製作(基礎実習) 模型製作(有床義歯実習模型) FD/PD/MP	有床義歯学実習の石膏模型を気泡を混入させないように石膏注入ができる。
11・12				模型製作(基礎実習) 模型製作(小児・矯正歯科学実習石膏模型)	小児・矯正歯科学実習の石膏模型を気泡を混入させないように石膏注入ができる。
13・14				模型製作(基礎実習) 咬合器装着(歯冠修復模型)(小児・矯正)	製作した上下模型を咬合器に装着ができる。
15・16				実技評価試験模型製作 ロウ堤形成器の製作	ロウ堤原型シリコン枠に石膏注入ができる。
17・18				実技評価試験模型製作 ロウ堤形成器の製作	ロウ堤原型石膏模型をシリコン枠に設置し石膏を注入できる。
19・20				実技評価試験模型製作 ロウ堤形成器の製作	ロウ堤形成器を3分割し、母模型のフィットを調整できる。
21・22				実技評価試験模型製作 ワックスアップ用模型製作	模型を製作するにあたり、支台歯がある一次石膏部分に気泡を混入させないように石膏注入ができる。
23・24				実技評価試験模型製作 ワックスアップ用模型製作	分割復位式模型を製作するためにダウエルピンの植立ができる。分割復位式模型を製作するために二次石膏注入ができる。
25・26				実技評価試験模型製作 ワックスアップ用模型製作	支台歯が歯列から着脱できるように分割ができる。ロウ型採得ができるように邪魔な歯肉部分を削除ができる。
27・28				実技評価試験模型製作 咬合器装着 (トレーニング用/試験用)	咬合器に石膏で装着し受験番号の記入ができる。
29・30				実技評価試験Ⅰ 人工歯排列 1 歯肉 形成(上顎)	中心咬合位における人工歯排列ができる。義歯床の唇・頬側・舌側等の形態をできるだけ自然に近い状態にするともに、義歯の機能を向上させるため蠟義歯の表面形態の形成ができる。
31・32				実技評価試験Ⅰ 人工歯排列(修正) 歯肉 形成(上顎修正)	中心咬合位における人工歯排列及び蠟義歯の表面形態の修正ができる。
33・34				実技評価試験Ⅰ 人工歯排列 2 歯肉 形成(上顎)	中心咬合位における人工歯排列ができる。義歯床の唇・頬側・舌側等の形態をできるだけ自然に近い状態にするともに、義歯の機能を向上させるため蠟義歯の表面形態の形成を行う。

91・92			実技評価 試験Ⅱ	上顎第一大臼歯の蝕型採得2課題の修正	大白歯の蝕型採得を60分でできる。実技評価試験2課題を合格基準を満たすように修正ができる。
93・94			実技評価 試験Ⅱ	人工歯排列・歯肉形成 5	中心咬合位における人工歯排列を70分でできる。義歯の機能を向上させるため蝕義歯の表面形態の形成を110分でできる。
95・96			実技評価 試験Ⅱ	上顎第一大臼歯の蝕型採得2課題の修正	大白歯の蝕型採得を60分でできる。実技評価試験2課題を合格基準を満たすように修正ができる。
97・98			実技評価 試験Ⅱ	人工歯排列・歯肉形成 6	中心咬合位における人工歯排列を70分でできる。義歯の機能を向上させるため蝕義歯の表面形態の形成を110分でできる。
99・100			実技評価 試験Ⅱ	上顎第一大臼歯の蝕型採得2課題の修正	大白歯の蝕型採得を60分でできる。実技評価試験2課題を合格基準を満たすように修正ができる。
101・102			実技評価 試験Ⅱ	人工歯排列・歯肉形成 7	中心咬合位における人工歯排列を70分でできる。義歯の機能を向上させるため蝕義歯の表面形態の形成を110分でできる。
103・104			実技評価 試験Ⅱ	上顎第一大臼歯の蝕型採得2課題の修正	大白歯の蝕型採得を60分でできる。実技評価試験2課題を合格基準を満たすように修正ができる。
105・106			実技評価 試験Ⅱ	人工歯排列・歯肉形成 8	中心咬合位における人工歯排列を70分でできる。義歯の機能を向上させるため蝕義歯の表面形態の形成を110分でできる。
107・108			実技評価 試験Ⅱ	上顎第一大臼歯の蝕型採得2課題の修正	大白歯の蝕型採得を60分でできる。実技評価試験2課題を合格基準を満たすように修正ができる。
109・110			国家試験 対策	矯正バンディング A デッサン・歯型彫刻 1	平面の設計線Aに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (上顎中切歯・上顎側切歯)
111・112			国家試験 対策	矯正バンディング(A修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Aに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(上顎中切歯・上顎側切歯)
113・114			国家試験 対策	矯正バンディング B デッサン・歯型彫刻 2	平面の設計線Bに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (上顎犬歯・下顎犬歯)
115・116			国家試験 対策	矯正バンディング(B修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Bに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(上顎犬歯・下顎犬歯)
117・118			国家試験 対策	矯正バンディング C デッサン・歯型彫刻 3	平面の設計線Cに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (上顎第一小臼歯・上顎第二小臼歯)
119・120			国家試験 対策	矯正バンディング(C修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Cに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(上顎第一小臼歯・上顎第二小臼歯)
121・122			国家試験 対策	矯正バンディング D デッサン・歯型彫刻 4	平面の設計線Dに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (上顎第一大臼歯・上顎第二大臼歯)
123・124			国家試験 対策	矯正バンディング(D修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Dに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(上顎第一大臼歯・上顎第二大臼歯)
125・126			国家試験 対策	矯正バンディング A デッサン・歯型彫刻 5	平面の設計線Aに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (下顎第一小臼歯・下顎第二小臼歯)
127・128			国家試験 対策	矯正バンディング(A修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Aに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(下顎第一小臼歯・下顎第二小臼歯)
129・130			国家試験 対策	矯正バンディング B デッサン・歯型彫刻 6	平面の設計線Bに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (下顎第一大臼歯・下顎第二大臼歯)
131・132			国家試験 対策	矯正バンディング(B修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Bに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(下顎第一大臼歯・下顎第二大臼歯)
133・134			国家試験 対策	矯正バンディング C デッサン・歯型彫刻 7	平面の設計線Cに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (下顎中切歯・下顎側切歯)
135・136			国家試験 対策	矯正バンディング(C修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Cに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(下顎中切歯・下顎側切歯)
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		0%			国家試験対策の手引き
実技試験		0%			
提出物		100%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	有床義歯技工学(実習)	学年	2 年 47 期生
担当者	山下 真由	期 別	前期
単位数	4 単 位	講義・実習	実習
コマ数・時間数	68コマ・136h	専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院で1年間実務経験のある教員が教育を行う。		

一般目標 (GIO)

部分床義歯: 部分床義歯を製作するための、咬合床の製作と人工歯の排列および歯肉形成、蠟義歯埋没およびレジン床の重合、咬合器再装着・人工歯の削合および義歯床の研磨を修得する。*維持装置・連結子は1年次製作済み。

全部床義歯: 総義歯を製作するために、リングライズドオクルージョンにおける人工歯の排列およびレジン床の重合、研磨を修得する。

金属床義歯: コバルトクロム合金を使用したワンピースキャストによる上顎部分金属床義歯の製作法を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				部分床義歯 床外形線の再記入	着脱方向の再確認を行い、床外形線の再記入ができる。
2				部分床義歯 咬合調整	咬合調整に必要な道具を準備し、中心咬合位に合わせて維持装置の高さの調整ができる。
3				部分床義歯 咬合堤の製作	維持装置・連結子を正しい位置に収め、パラフィンワックスで固定し辺縁封鎖ができる。
4				部分床義歯 咬合堤の製作	中間欠損・遊離端欠損、上下顎の咬合堤の製作の違いを理解し、基準線を用い咬合堤の高さを測定ができる。
5				部分床義歯 咬合堤の製作	パラフィンワックスを軟化圧接し、基準線の位置を確認し、欠損部にのせ焼き付けができる。
6				部分床義歯 咬合堤の製作	着脱方向を意識し、部分欠損におけるの残存歯との境界部・床縁部の関係を理解し、形成ができる。
7				部分床義歯 スプリットキャストの付与	スプリットキャストの目的・種類を理解し、作業模型に付与ができる。
8				部分床義歯 咬合器装着	咬合器の種類・目的を理解し、作業模型装着に必要な器材を準備ができる。(平均値咬合器使用)
9				部分床義歯 咬合器装着	分離・ボクシングの目的を理解し、作業模型に分離剤の塗布・ボクシングの操作ができる。
10				部分床義歯 咬合器装着	咬合平板に上顎模型を置き、普通石膏で上顎模型の装着ができる。
11				部分床義歯 咬合器装着	下顎模型を上顎模型と咬合させ、上顎模型と同様、咬合器に装着ができる。
12				部分床義歯 咬合器装着	石膏硬化後、模型とスプリットキャスト板を分離し、分割面の状態を確認し、側面の面調整ができる。
13				部分床義歯 人工歯排列 人工歯選択	残存歯の位置・咬合状態を念頭において、欠損部義歯床の近遠心的長さと同堤の状態を考慮し、人工歯の選択ができる。
14				部分床義歯 人工歯排列 ①	調節彎曲を理解し、下顎の咬合堤のカットを行い人工歯排列の基本に準じ対合歯の排列ができる。
15				部分床義歯 人工歯排列 ②	上顎右側同様、調節彎曲を理解し下顎の咬合堤のカットを行い、人工歯排列の基本に準じ反対側の排列ができる。

16			部分床義歯	人工歯排列 ③	後の人工歯選択削合を行うことを目的に、切歯指導ピンを0.5mm挙上させ、咬合紙を用い咬合状態を調べ、咬合紙の使用法を熟練し、上顎に合わせて中心咬合位における排列ができる。
17			部分床義歯	人工歯排列 ④	後の人工歯選択削合を行うことを目的に、切歯指導ピンを0.6mm挙上させ、咬合紙を用い咬合状態を調べ、咬合紙の使用法を熟練し、上顎に合わせて中心咬合位における排列ができる。
18			部分床義歯	人工歯削合	人工歯削合に適切な道具を準備ができる。
19			部分床義歯	人工歯削合	BULLの法則に準じて咬合紙を用い、中心咬合位・偏心咬合位の選択削合ができる。
20			部分床義歯	歯肉形成	中間欠損・遊離端欠損の床縁の違いを理解し、ワックスの性質を熟知しパラフィンワックスにて人工歯焼き付け・歯頸部のワックス盛り上げの操作ができる。
21			部分床義歯	歯肉形成 歯頸部切除	前歯部・臼歯部の歯頸線の角度の違いを理解し、また残存歯を参考に歯頸部切除ができる。
22			部分床義歯	歯肉形成 頬側面形成	残存歯との調和を考慮し、前歯部・臼歯部の豊隆の違い・歯根の方向を考え頬側面の歯肉形成ができる。
23			部分床義歯	歯肉形成 舌側面形成	残存歯の歯頸線を考慮し、食物停滞しないように滑らかな舌側面の歯肉形成ができる。
24			部分床義歯	歯肉形成 仕上げ	アルコールトーチの炎を操作し、表面を滑沢に仕上げ操作ができる。
25			部分床義歯	フラスコ埋没	埋没法の種類・操作手順を理解し、埋没に必要な道具を準備ができる。
26			部分床義歯	フラスコ埋没 一次埋没	アメリカ・フランス併用法を用い、普通石膏にて下輪埋没を始める。石膏硬化後、石膏面を平滑に修正し、石膏分離剤の塗布ができる。
27			部分床義歯	フラスコ埋没 二次埋没	硬質石膏にて義歯表面・人工歯の咬合面に気泡が入らないように練和操作を行い、上輪埋没ができる。
28			部分床義歯	フラスコ埋没 三次埋没	二次埋没終了後、上輪フラスコを下輪フラスコに適合し、普通石膏泥を流し込み蓋を閉め、フラスコプレスで固定ができる。
29			部分床義歯	流蠟	流蠟に必要な器材・道具を準備し、開輪のため、フラスコをお湯による加熱ができる。
30			部分床義歯	流蠟	フラスコを開輪し、流蠟を実施する。流蠟後、レジン填入時に備え鋭角部をナイフによる削除を行い、レジン分離剤を石膏面全体に塗布ができる。
31			部分床義歯	重合	レジン填入に必要な器材・材料を準備し、レジン填入に必要なレジンの計測を行い、ポリマー・モノマーを混ぜ餅状になったら填入ができる。
32			部分床義歯	重合	油圧プレス機を用い試圧を数回を行い、フラスコプレスで固定を実施し、ヒートショック法を用い重合ができる。
33			部分床義歯	開輪	開輪に必要な道具を準備し、模型を破損させない様注意し開輪ができる。
34			部分床義歯	咬合器再装着	人工歯咬合面や接合面などの石膏の除去を行い、メルト液に浸し石膏の除去を行い。重合後の作業模型・義歯床を石膏スプリットに適合させ、咬合器上の模型維持部のスプリットに装着ができる。
35			部分床義歯	人工歯の削合	人工歯削合に必要な道具を選択し、BULLの法則に準じて咬合紙を用い、中心咬合位・偏心咬合位の選択削合ができる。
36			部分床義歯	研磨 形態修正	研磨に必要な道具を準備し、部分床において、中間欠損・遊離端欠損部の床縁部の厚みに注意し、義歯床の形態修正ができる。
37			部分床義歯	研磨 荒研磨	技工用エンジンを使用し、荒研磨ができる。
38			部分床義歯	研磨 中研磨	高速レーズを使用し、維持装置を留意し、変形させない中研磨ができる。
39			部分床義歯	研磨 仕上げ研磨	高速レーズ・技工用エンジンを使用し、仕上げ研磨ができる。
40			部分床義歯	洗浄・完成	スチーマーを用いて、義歯・模型の洗浄を実施し、作業模型に適合ができる。
41			金属床	作業模型の製作	石膏練和に必要な器材を準備し、石膏の練和を行い、模型ゴム枠に石膏を流す。石膏硬化後、ゴム枠の高さに模型基底面をトリマーも用いて調整ができる。
42			金属床	着脱方向の決定	着脱方向の決定に必要な道具(サバイヤー)を準備し、使用法を理解し、着脱方向の決定のためにサベイングができる。
43			金属床	金属床外形線の記入	床外形線を解剖学的指標により判断し、金属床外形線の記入ができる。
44			金属床	アンダーカットのブロック	ブロックアウトに必要な道具を準備し、石膏によるアンダーカット部のブロックを行う。
45			金属床	模型の緩衝	緩衝の部位・目的を理解し、必要な材料を準備し、シートワックスによるリーフを行う。

46			金属床	寒天印象(複印象)	複印象に必要な道具を準備し、作業模型を吸水させ、フラスコ中央にセットし、気泡の混入に注意し、寒天印象材の注入を行う。
47			金属床	寒天印象(冷却)	寒天印象材の注入後、放冷し、ステップに分けて水中にて冷却ができる。
48			金属床	耐火模型の製作 (作業模型の取り出し)	耐火模型製作に必要な道具を準備し、寒天印象材の冷却後フラスコを分離し、寒天を傷つけないよう注意し、作業模型の取り出しができる。
49			金属床	耐火模型の製作 (耐火模型材の注入)	寒天印象材が破損しないよう寒天にエアーをかけ、高温耐火性模型材を真空攪拌し、気泡が入らないように注意し模型材の注入ができる。
50			金属床	耐火模型のトリミング	硬化完了した耐火模型を壊れないようにフラスコから取り出しを行い、トリマーを用い模型辺縁のトリミングができる。
51			金属床	耐火模型の表面処理・乾燥	表面処理に必要な道具を準備し、表面処理の操作法・目的を理解し、モデルコートを使用して表面処理をし、オープンにて乾燥ができる。
52			金属床	設計線の複写	設計線の複写に必要な道具を準備し、耐火模型を傷つけないよう注意し設計線の複写ができる。
53			金属床	蠟形成	ワックスアップに必要な道具を準備し、耐火模型を傷つけないよう注意し、ワックスアップのマニュアルに沿ってワックスアップができる。
54			金属床	蠟形成	義歯床の唇・頬・舌側等の形態をできるだけ自然に近い状態に状態にすると共に、義歯の機能を向上させる表面形態の形成ができる。
55			金属床	蠟形成	ワックスアップし、トーチをあて表面を滑沢にすることを目的に最終仕上げができる。
56			金属床	辺縁封鎖	辺縁封鎖の目的を理解し、瞬間接着剤を用いて辺縁封鎖ができる。
57			金属床	耐火模型のトリミング	ワックスを傷つけないよう注意し、耐火模型の不要部分をトリマーを用い除去ができる。
58			金属床	スプルー線の植立	湯流れのよいスプルーングを理解し、耐火模型を金属床用フラスコの底部ラバーにワックスにて固定を行い、上方植立法を用いスプルーングができる。
59			金属床	埋没	埋没に必要な道具を準備し、ワックスパターンに界面活性剤を、プラスチックリングにワセリンを塗布し、気泡が入らないように注意し埋没ができる。
60			金属床	铸造	耐火材の硬化後、ファーンネスを使用し、設定された上昇温度スケジュールでワックス焼却ができる。
61			金属床	铸造	アルゴンキャストの操作法を理解し、アルゴンキャストで铸造ができる。
62			金属床	割り出し	割り出しに必要な道具を準備し、铸造後放冷し埋没材から铸造体の割り出しができる。
63			金属床	スプルー線のカット	高速レーズ・技工用エンジンを使用し、スプルー線のカットができる。
64			金属床	研磨 荒研磨	研磨に必要な道具を準備し、技工用エンジンを使用し荒研磨ができる。
65			金属床	研磨 中研磨	技工用エンジンを使用し、維持装置を留意し、変形させない中研磨ができる。
66			金属床	研磨 電解研磨	電解研磨器に金属床をセットし、電解研磨ができる。
67			金属床	研磨 仕上げ研磨	高速レーズ・技工用エンジンを使用し、仕上げ研磨ができる。
68			金属床	洗浄・完成	スチーマーを用いて、金属床・模型の洗浄を実施し、作業模型に適合ができる。
69					
評価基準			教科書		参考書
提出物	100%	歯科技工学実習帳 有床義歯技工学		有床実習マニュアル 部分床義歯2	
	%			有床実習マニュアル 金属床義歯	
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:40~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	歯冠修復技工学(実習)	学年	2年 47期
担当者	田口 聖治	期別	後期
単位数	4単位	講義・実習	実習
コマ数・時間数	71コマ・142h	専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院で2年間実務経験のある教員が教育を行う。		

一般目標 (GIO)

プロビジョナルクラウン: プロビジョナルクラウンの意義と目的を理解し、常温重合レジンを用いたプロビジョナルクラウンの製作法を習得する。

レジン前装冠: 金銀パラジウム合金を使用したレジン前装冠の製作法を習得する。

陶材焼付金属冠: 陶材焼付金属冠における二層築盛の方法を習得する。

前歯部固定性ブリッジ: ワンピースキャスト法による前歯部固定性ブリッジ(レジン前装冠)の製作法を習得する。※メタルフレームまで

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				プロビジョナルクラウン 作業模型の製作・トリミング	模型ゴム枠に石膏を流しゴム枠の高さに模型基底面を調整するトリマーの使用方法を身につけ、支台歯のフィニッシュラインを理解し、トリミングを行う。
2				プロビジョナルクラウン 歯冠形態の回復	支台歯の移動防止・機能の維持・審美性の維持・歯周組織の保護などを考慮した歯冠形態を理解し、形態回復を行う。
3				プロビジョナルクラウン 作業模型の印象・レジン圧入	印象材・常温重合レジンの操作を身につけ、レジンの圧入を実施する。
4				プロビジョナルクラウン 作業模型の印象・レジン圧入	印象材・常温重合レジンの操作を身につけ、レジンの圧入を実施する。
5				プロビジョナルクラウン 形態修正・研磨	研磨の目的を理解し、研磨を実施する。
6				プロビジョナルクラウン 形態修正・研磨	研磨の目的を理解し、研磨を実施する。
7				レジン前装冠 一次石膏注入	模型ゴム枠に石膏を流しゴム枠の高さに模型トリマーにて調整を行う。
8				レジン前装冠 回転防止溝の形成 ダウエルピンの植立	U字形の回転防止溝を形成し、歯型を歯列模型から着脱できるように歯型の底部にダウエルピンの取り付けを行う。
9				レジン前装冠 二次石膏注入	歯列基底面に分離材を薄く塗布し、既製の型枠などを用い台付けを行う。
10				レジン前装冠 歯型の分割	フィニッシュラインを傷つけることのないよう石膏鋸を用い分割し、歯型が抜き差しできることを確認を行う。
11				レジン前装冠 トリミング	トリミングの目的を理解し、歯型のトリミングを行う。
12				レジン前装冠 対合歯列模型の調整	咬合器に収まる高さに調整し、石膏による装着を確実にするため基底面にアンダーカットの付与を行う。
13				レジン前装冠 咬合器装着	上下顎模型を咬頭嵌合位でかませ、咬合器装着を行う。
14				レジン前装冠 ロウ形採得	対合歯との咬合関係を考慮するとともに反対側同名歯と同じ形態を再現し、隣在歯などの残存歯との調和のとれたワックスアップを実施する。
15				レジン前装冠 窓あけ	窓あけの目的を理解し、窓あけ操作を行う。
16				レジン前装冠 維持装置の付与	リテンションピースの目的を理解し、付与を行う。
17				レジン前装冠 スプルー線の植立	铸造欠陥が起こらないスプルーイングを理解し、植立を実施する。
18				レジン前装冠 埋没・铸造	前装冠の埋没操作を身につけ、遠心铸造機を用い金銀パラジウム合金の融解・铸造を行う。
19				レジン前装冠 支台歯への試適	スコープを用い気泡、バリなどをフィッシャーバーにて削り、適合の確認を行う。
20				レジン前装冠 コンタクトポイント・咬合調整	咬合紙を用い咬合紙が少し抵抗があつて抜ける強さに調整を行う。

21			レジン 前装冠	メタルフレームの調整	レジン前装後にリテンションピースが露出せず、また金属がみえないような辺縁部先端調整を行う。
22			レジン 前装冠	オペークプライマーの塗布	機械的維持力と化学的維持力の違いを理解し、金属接着プライマーの塗布を行う。
23			レジン 前装冠	オペークの塗布・重合	オペークレジンの目的(金属色の遮断)を理解し、塗布・重合を行う。
24			レジン 前装冠	サービカルレジンの築盛・重合	ボディレジンとの色調の移行性を考慮しながら、歯頸部から切端に向かって薄くなるように築盛を行う。
25			レジン 前装冠	ボディレジンの築盛・重合	エナメル部分との色調の移行性を考慮し、指状構造を付与しながら、面溝や隆線などの立体的な表現を行う。
26			レジン 前装冠	エナメルの築盛・重合	気泡の混入に注意しながら、形態修正、研磨分を考慮最終形態よりやや大きめに築盛を行う。
27			レジン 前装冠	トランスルーセントの築盛・重合	歯の透明感を再現するため、トランスルーセントの築盛を行う。
28			レジン 前装冠	形態修正	反対側同名歯と同じ形態を再現し、面溝や隆線などの立体的な表現を身に付け、形態修正を行う。
29			レジン 前装冠	研磨	研磨の目的を理解し、仕上げ研磨を行う。
30			レジン 前装冠	洗浄	研磨材の汚れをスチーマーにて洗浄を行う。
31			陶材焼付金 属冠	作業用模型の製作・咬合器装着	歯型可撤式模型の製作法を習得し、上下顎模型を咬頭嵌合位でかませ咬合器装着を行う。
32			陶材焼付金 属冠	作業用模型の製作・咬合器装着	歯型可撤式模型の製作法を習得し、上下顎模型を咬頭嵌合位でかませ咬合器装着を行う。
33			陶材焼付金 属冠	歯冠形態の回復	対合歯との咬合関係を考慮するとともに、反対側同名歯と同じ形態とし、隣在歯など残存歯と調和のとれたワックスアップを行う。
34			陶材焼付金 属冠	歯冠形態の回復	対合歯との咬合関係を考慮するとともに、反対側同名歯と同じ形態とし、隣在歯など残存歯と調和のとれたワックスアップを行う。
35			陶材焼付金 属冠	窓あけ	陶材の厚みが均一となるように前装スペースの窓あけを行う。
36			陶材焼付金 属冠	窓あけ	陶材の厚みが均一となるように前装スペースの窓あけを行う。
37			陶材焼付金 属冠	埋没・鋳造	舌側にリムーバブルノブを付与し、スブルー線植立、埋没を行う。
38			陶材焼付金 属冠	埋没・鋳造	高周波誘導融解を使用した鋳造法を習得し、ニッケル系の金属で鋳造を行う。
39			陶材焼付金 属冠	取り出し	埋没材の中の鋳造体の取り出しを行う。
40			陶材焼付金 属冠	メタルフレームの調整	辺縁部先端の厚みは可及的に1mmとし、穴が開かないようメジャリングデバイスで厚みを確認しながら、前装部の厚みの調整を行う。
41			陶材焼付金 属冠	メタルフレームの調整	辺縁部先端の厚みは可及的に0mmとし、穴が開かないようメジャリングデバイスで厚みを確認しながら、前装部の厚みの調整を行う。
42			陶材焼付金 属冠	メタルフレームの調整	辺縁部先端の厚みは可及的に1mmとし、穴が開かないようメジャリングデバイスで厚みを確認しながら、前装部の厚みの調整を行う。
43			陶材焼付金 属冠	メタルフレームの調整	辺縁部先端の厚みは可及的に2mmとし、穴が開かないようメジャリングデバイスで厚みを確認しながら、前装部の厚みの調整を行う。
44			陶材焼付金 属冠	アルミナブラスト処理・ディギヤツ シング	陶材とのなじみをよくし、機械的な嵌合力を増すためにブラスト処理を行う。酸化膜の生成と焼付面の汚物を除去するために、加熱処理を行う。
45			陶材焼付金 属冠	アルミナブラスト処理・ディギヤツ シング	陶材とのなじみをよくし、機械的な嵌合力を増すためにブラスト処理を行う。酸化膜の生成と焼付面の汚物を除去するために、加熱処理を行う。
46			陶材焼付金 属冠	オペーク陶材の築盛・焼成	ベースオペーク焼成で金属色の遮断を行う。
47			陶材焼付金 属冠	オペーク陶材の築盛・焼成	シェードオペーク焼成で金属色の遮断を行う。
48			陶材焼付金 属冠	デンティン陶材の築盛	コンデンスの意義を理解し、焼成収縮分を考慮した大きさに築盛を行う。
49			陶材焼付金 属冠	エナメル色陶材の築盛	コンデンスの意義を理解し、焼成収縮分を考慮した大きさに築盛を行う。
50			陶材焼付金 属冠	補足焼成	不足部分の築盛を行い焼成する。

51			陶材焼付金 属冠	形態修正①	隣接面部と咬合部の調整を行う
52			陶材焼付金 属冠	形態修正②	隣在歯と同じ形に形態修正を行う。
53			陶材焼付金 属冠	形態修正③	表面を天然歯と同じような表面性状に調整を行う。
54			陶材焼付金 属冠	形態修正③	表面を天然歯と同じような表面性状に調整を行う。
55			陶材焼付金 属冠	ステイニング・艶出し焼成	天然歯のような光沢、色調を再現するためステイニング・艶出しを行う。
56			陶材焼付金 属冠	ステイニング・艶出し焼成	天然歯のような光沢、色調を再現するためステイニング・艶出しを行う。
57			陶材焼付金 属冠	メタル研磨	酸化した金属部分の研磨を行う。
58			前歯部固定 性ブリッジ	作業用模型の製作	歯型可撤式模型の製作法を習得し、欠損部は隣接支台歯のフィニッシュラインを傷つけないように分割を行う。
59			前歯部固定 性ブリッジ	咬合器装着	上下顎模型を咬頭嵌合位でかませ、咬合器装着を行う。
60			前歯部固定 性ブリッジ	支台装置のワックスアップ	対合歯との咬合関係の確認や欠損部幅径とのバランスを考慮して解剖学的形態の回復を行う。
61			前歯部固定 性ブリッジ	欠損部の作業用模型の調整	研磨分を考慮して粘膜部を削り、調整を行う。
62			前歯部固定 性ブリッジ	ボンテックのワックスアップ	咬合関係や支台装置とのバランスを考慮しながら解剖学的形態の付与を行う。
63			前歯部固定 性ブリッジ	ボンテック基底部の形成	ボンテック基底部形態による分類を理解し、偏側型に形成を行う。
64			前歯部固定 性ブリッジ	連結	ボンテックの位置がずれないように、咬合関係を確認して連結部の製作を行う。
65			前歯部固定 性ブリッジ	窓あけ	窓あけ操作の目的を理解し、窓あけ操作を行う。
66			前歯部固定 性ブリッジ	維持装置の付与	接着剤の塗り過ぎでアンダーカットがなくならないよう注意し、リテンションピース(維持)の付与を行う。
67			前歯部固定 性ブリッジ	スプルー線の植立	ワックスパターンが変形しないよう注意してスプルー線の植立を行う。
68			前歯部固定 性ブリッジ	埋没・鑄造	ワックスパターンとリングの距離に注意し、前装部のアンダーカットの中まで埋没材が入るよう慎重に埋没を行い、遠心鑄造機にて鑄造を行う。
69			前歯部固定 性ブリッジ	支台歯への試適	内面の気泡などを除去して1歯ずつ歯型との適合の確認を行う。
70			前歯部固定 性ブリッジ	コンタクトポイント・咬合調整	隣接面接触点と咬合関係の調整を行う。
71			前歯部固定 性ブリッジ	研磨	シリコンポイントにて中研磨まで研磨を行う。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%				歯冠修復マニュアル2 前歯部固定性ブリッジ(九州医療専門学校)
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	小児歯科技工学	学年	2年 47期生
担当者	尾崎 正雄	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
コマ数・時間数	8コマ・16h	専任・兼任	兼任
実務経験	歯科大学 小児歯科学分野で診療		

一般目標 (GIO)

小児の成長発達と小児歯科における歯科治療の重要性を理解する。

小児歯科技工の特徴を理解する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				小児歯科とは	小児歯科について説明できる。
2				心身の発育	小児の成長と発達を説明できる。
3				顎・顔面および歯列の発育	顎・顔面と歯列の発育について説明できる。
4				乳歯および幼若永久歯の特徴	乳歯および幼若永久歯の特徴を説明できる。
5				乳歯と若永久歯の歯冠修復	乳歯と幼若永久歯の歯冠修復について説明できる。
6				咬合誘導	静的咬合誘導と動的咬合誘導について説明できる。
7				咬合誘導装置1	保隙装置の種類と特徴について説明できる。
8				咬合誘導装置2	スペースリテーナーやその他の動的咬合誘導記咬合誘導装置について説明できる。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	最新歯科技工士教本 小児歯科技工学	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:45~12:15)

3限目 (13:15~14:45)

4限目 (15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	小児歯科技工学	学年	2 年 47 期生
担当者	馬場 篤子	期 別	前期
単位数	1単位	講義・実習	実習
コマ数・時間数	16コマ・32h	専任・兼任	兼任
実務経験	一般社団法人 日本小児歯科学会認定 専門医指導医歴13年目の教員が実習を行う。		

一般目標 (GIO)

小児は単に成人のミニチュアではなく身体的、精神的、機能的、更には社会的に成長発達の途上にあり、

日々変化を続けている。このように、変化に富んだ小児期を対象とした咬合誘導装置の設計、製作方法を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				クラウン ループ 作業模型の製作	クラウンループの作業用模型製作をできる。
2				クラウン ループ 外形線的设计	クラウンループの設計ができる。
3				クラウン ループ 蝋着	クラウンループの蝋着ができる。
4				クラウン ループ 研磨	クラウンループの研磨ができる。
5				床型保隙 装置 作業模型の製作	床型保隙装置の作業用模型製作をできる。
6				床型保隙 装置 外形線的设计・ワイヤーベ ンディング	床型保隙装置の設計・ワイヤーベンディングができる。
7				床型保隙 装置 レジン歯排列・石膏コア、 レジン床の製作	床型保隙装置のレジン歯排列・石膏コア、レジン床製作ができる。
8				床型保隙 装置 研磨	床型保隙装置の研磨ができる。
9				スペースリ ゲーナー 作業模型の製作	床型スペースリゲーナーの作業用模型製作をできる。
10				スペースリ ゲーナー 外形線的设计・ワイヤーベ ンディング	床型スペースリゲーナーの設計、ワイヤーベンディングができる。
11				スペースリ ゲーナー 拡大ねじの固定、レジン 床の製作	床型スペースリゲーナーの拡大ネジの固定、レジン床製作ができる。
12				スペースリ ゲーナー 研磨	床型スペースリゲーナーの研磨ができる。
13				舌側弧線 装置 作業模型の製作	舌側弧線装置の作業用模型製作をできる。
14				舌側弧線 装置 外形線的设计、STロックの 蝋着	舌側弧線装置の設計、STロックを蝋着ができる。
15				舌側弧線 装置 ワイヤーベンディング、蝋 着	舌側弧線装置のワイヤーベンディング、蝋着ができる。
16			4	舌側弧線 装置 研磨	舌側弧線装置の研磨を行う。

評価基準		教科書	参考書
提出物	100%	最新歯科技工士教本 小児歯科技工学	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:45~12:15)

3限目 (13:15~14:45)

4限目 (15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	矯正歯科技工学	学年	2 年 47 期生
担当者	玉置 幸雄	期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
コマ数・時間数	8コマ・16h	専任・兼任	兼任
実務経験	公益社団法人日本矯正歯科学会 指導医歴7年および矯正歯科在籍歴22年		

一般目標(GIO)

近年、矯正歯科治療の進歩および普及により、従来の若年者のみならず成人の矯正治療患者が増加している。

矯正歯科材料の物理的性質ならびに矯正装置の構造・作用機序について理解をさらに深めるため、

矯正装置の材料、製作手順を理解し、矯正装置の知識を習得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				1～3章 矯正治療とは	不正咬合と正常咬合について説明できる。
2				4章 矯正治療の進め方	症例分類を列記できる。
3				5, 6章 矯正技工用器具と器械	矯正線の屈曲、自在鑑付けについて説明できる。
4				7, 8章 矯正用模型の製作法	矯正用模型の種類と特徴を説明できる。
5				9章 矯正装置の製作法	矯正装置を列挙し、製作法を説明できる。
6				9章 矯正装置の製作法	矯正装置を列挙し、製作法を説明できる。
7				10章 保定装置	保定装置を列挙し、特徴を説明できる。
8				10章 保定装置	保定装置を列挙し、特徴を説明できる。
9					
10					

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	最新 歯科技工士教本 矯正歯科技工学	
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:45～12:15)

3限目(13:15～14:45)

4限目(15:00～16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	矯正歯科技工学	学年	2 年 47 期生
担当者	中嶋 宏樹	期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	実習
コマ数・時間数	20コマ・40h	専任・兼任	兼任
実務経験	公益社団法人日本矯正歯科学会 認定医歴3年および矯正歯科在籍歴8年		

一般目標 (GIO)

近年、矯正歯科治療の進歩および普及により、従来の若年者のみならず成人の矯正治療患者が増加している。

矯正歯科材料の物理的性質ならびに矯正装置の構造・作用機序について理解をさらに深めるため、

模型を用いて代表的な矯正装置の製作を行い、同時に矯正技工の基本手技と装置製作法を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				線屈曲 : 線屈曲	矯正歯科材料の物理的性質について理解し、プライヤーを用いた線屈曲が行える。
2				線屈曲 : 線屈曲	矯正歯科材料の物理的性質について理解し、プライヤーを用いた線屈曲が行える。
3				線屈曲 : 線屈曲	矯正歯科材料の物理的性質について理解し、プライヤーを用いた線屈曲が行える。
4				線屈曲 : 線屈曲	矯正歯科材料の物理的性質について理解し、プライヤーを用いた線屈曲が行える。
5				自在鑑付け : 自在ろう着	補助弾線の屈曲により歯の移動に必要な矯正力について理解し、自在ろう着が行える。
6				自在鑑付け : 自在ろう着	補助弾線の屈曲により歯の移動に必要な矯正力について理解し、自在ろう着が行える。
7				自在鑑付け : 自在ろう着	補助弾線の屈曲により歯の移動に必要な矯正力について理解し、自在ろう着が行える。
8				自在鑑付け : 自在ろう着	補助弾線の屈曲により歯の移動に必要な矯正力について理解し、自在ろう着が行える。
9				保定装置 : 床装置の維持装置の作製	維持用ワイヤーの屈曲が行える。
10				保定装置 : 床装置の維持装置の作製	維持用ワイヤーの屈曲が行える。
11				保定装置 : 床装置のレジンン操作	各種床装置に必要なレジンン築成が行える。
12				保定装置 : 床装置のレジンン操作	各種床装置に必要なレジンン築成が行える。
13				FKO : アクチバートルの作製	Ⅲ級アクチバートル (FKO) についてその構造、製作法および作用について理解し、製作できる。
14				FKO : アクチバートルの作製	Ⅲ級アクチバートル (FKO) についてその構造、製作法および作用について理解し、製作できる。
15				FKO : アクチバートルの作製	Ⅲ級アクチバートル (FKO) についてその構造、製作法および作用について理解し、製作できる。

16			FKO	アクチバートルの作製	Ⅲ級アクチバートル(FKO)についてその構造、製作法および作用について理解し、製作できる。
17			FKO	アクチバートルの作製	Ⅲ級アクチバートル(FKO)についてその構造、製作法および作用について理解し、製作できる。
18			FKO	アクチバートルの作製	Ⅲ級アクチバートル(FKO)についてその構造、製作法および作用について理解し、製作できる。
19			FKO	アクチバートルの作製	Ⅲ級アクチバートル(FKO)についてその構造、製作法および作用について理解し、製作できる。
20			FKO	アクチバートルの作製	Ⅲ級アクチバートル(FKO)についてその構造、製作法および作用について理解し、製作できる。
評価基準			教科書		参考書
提出物		100%	最新 歯科技工士教本 矯正歯科技工学		新 矯正装置ビジュアルガイド
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科技工士本科

科目名	歯科技工実習	学年	2 年 47 期生
担当者	田口 聖治	期別	前期
単位数	9 単位	講義・実習	実習
コマ数・時間数	136コマ・272h	専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院で2年間実務経験のある教員が教育を行う。		

一般目標 (GIO)

模型製作: 基礎実習課題製作の為に模型製作をまとめて行うことによって、製作効率の良い模型製作方法を修得する。

実技評価試験Ⅰ: 実技評価試験に合格するために、中心咬合位における総義歯人工歯の排列および歯肉形成を180分で製作完成させる技術を修得する。

実技評価試験Ⅱ: 実技評価試験に合格するために、人工歯排列・歯肉形成と臼歯部全部鑄造冠ロウ型採得を規程時間に製作完成する技術を修得する。

国家試験対策: 国家試験の実技試験に合格するために、矯正ベンディングと歯牙デッサン及び歯型彫刻を規程時間に製作完成する技術を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1・2				模型製作(基礎実習) 模型製作(修復実習模型一次石膏模型) MB/HR/Br./テック	模型を製作するにあたり、支台歯がある一次石膏部分に気泡を混入させないように石膏注入ができる。
3・4				模型製作(基礎実習) 模型製作(修復実習模型一次石膏模型) CAD/F-C/トレーシング模型	模型を製作するにあたり、支台歯がある一次石膏部分に気泡を混入させないように石膏注入ができる。
5・6				模型製作(基礎実習) 模型製作(ダウエルピン植立) (二次石膏注入模型製作)	分割復位式模型を製作するためにダウエルピンの植立ができる。分割復位式模型を製作するために二次石膏注入ができる。
7・8				模型製作(基礎実習) 模型製作(支台歯分割) (トリミング)	支台歯が歯列から着脱できるように分割ができる。ロウ型採得ができるように邪魔な歯肉部分を削除ができる。
9・10				模型製作(基礎実習) 模型製作(有床義歯実習模型) FD/PD/MP	有床義歯学実習の石膏模型を気泡を混入させないように石膏注入ができる。
11・12				模型製作(基礎実習) 模型製作(小児・矯正歯科学実習石膏模型)	小児・矯正歯科学実習の石膏模型を気泡を混入させないように石膏注入ができる。
13・14				模型製作(基礎実習) 咬合器装着(歯冠修復模型)(小児・矯正)	製作した上下模型を咬合器に装着ができる。
15・16				実技評価試験模型製作 ロウ堤形成器の製作	ロウ堤原型シリコン枠に石膏注入ができる。
17・18				実技評価試験模型製作 ロウ堤形成器の製作	ロウ堤原型石膏模型をシリコン枠に設置し石膏を注入できる。
19・20				実技評価試験模型製作 ロウ堤形成器の製作	ロウ堤形成器を3分割し、母模型のフィットを調整できる。
21・22				実技評価試験模型製作 ワックスアップ用模型製作	模型を製作するにあたり、支台歯がある一次石膏部分に気泡を混入させないように石膏注入ができる。
23・24				実技評価試験模型製作 ワックスアップ用模型製作	分割復位式模型を製作するためにダウエルピンの植立ができる。分割復位式模型を製作するために二次石膏注入ができる。
25・26				実技評価試験模型製作 ワックスアップ用模型製作	支台歯が歯列から着脱できるように分割ができる。ロウ型採得ができるように邪魔な歯肉部分を削除ができる。
27・28				実技評価試験模型製作 咬合器装着 (トレーニング用/試験用)	咬合器に石膏で装着し受験番号の記入ができる。
29・30				実技評価試験Ⅰ 人工歯排列 1 歯肉形成(上顎)	中心咬合位における人工歯排列ができる。義歯床の唇・頬側・舌側等の形態をできるだけ自然に近い状態にするとともに、義歯の機能を向上させるため蠟義歯の表面形態の形成ができる。

85・86			実技評価 試験Ⅱ	人工歯排列・歯肉形成 3	中心咬合位における人工歯排列を70分で行える。義歯の機能を向上させるため蝕義歯の表面形態の形成を110分で行える。
87・88			実技評価 試験Ⅱ	上顎第一大臼歯の蝕型採得2課題の修正	大白歯の蝕型採得を60分で行える。実技評価試験2課題を合格基準を満たすように修正ができる。
89・90			実技評価 試験Ⅱ	人工歯排列・歯肉形成 4	中心咬合位における人工歯排列を70分で行える。義歯の機能を向上させるため蝕義歯の表面形態の形成を110分で行える。
91・92			実技評価 試験Ⅱ	上顎第一大臼歯の蝕型採得2課題の修正	大白歯の蝕型採得を60分で行える。実技評価試験2課題を合格基準を満たすように修正ができる。
93・94			実技評価 試験Ⅱ	人工歯排列・歯肉形成 5	中心咬合位における人工歯排列を70分で行える。義歯の機能を向上させるため蝕義歯の表面形態の形成を110分で行える。
95・96			実技評価 試験Ⅱ	上顎第一大臼歯の蝕型採得2課題の修正	大白歯の蝕型採得を60分で行える。実技評価試験2課題を合格基準を満たすように修正ができる。
97・98			実技評価 試験Ⅱ	人工歯排列・歯肉形成 6	中心咬合位における人工歯排列を70分で行える。義歯の機能を向上させるため蝕義歯の表面形態の形成を110分で行える。
99・100			実技評価 試験Ⅱ	上顎第一大臼歯の蝕型採得2課題の修正	大白歯の蝕型採得を60分で行える。実技評価試験2課題を合格基準を満たすように修正ができる。
101・102			実技評価 試験Ⅱ	人工歯排列・歯肉形成 7	中心咬合位における人工歯排列を70分で行える。義歯の機能を向上させるため蝕義歯の表面形態の形成を110分で行える。
103・104			実技評価 試験Ⅱ	上顎第一大臼歯の蝕型採得2課題の修正	大白歯の蝕型採得を60分で行える。実技評価試験2課題を合格基準を満たすように修正ができる。
105・106			実技評価 試験Ⅱ	人工歯排列・歯肉形成 8	中心咬合位における人工歯排列を70分で行える。義歯の機能を向上させるため蝕義歯の表面形態の形成を110分で行える。
107・108			実技評価 試験Ⅱ	上顎第一大臼歯の蝕型採得2課題の修正	大白歯の蝕型採得を60分で行える。実技評価試験2課題を合格基準を満たすように修正ができる。
109・110			国家試験 対策	矯正バンディング A デッサン・歯型彫刻 1	平面の設計線Aに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (上顎中切歯・上顎側切歯)
111・112			国家試験 対策	矯正バンディング(A修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Aに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(上顎中切歯・上顎側切歯)
113・114			国家試験 対策	矯正バンディング B デッサン・歯型彫刻 2	平面の設計線Bに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (上顎犬歯・下顎犬歯)
115・116			国家試験 対策	矯正バンディング(B修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Bに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(上顎犬歯・下顎犬歯)
117・118			国家試験 対策	矯正バンディング C デッサン・歯型彫刻 3	平面の設計線Cに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (上顎第一小臼歯・上顎第二小臼歯)
119・120			国家試験 対策	矯正バンディング(C修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Cに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(上顎第一小臼歯・上顎第二小臼歯)
121・122			国家試験 対策	矯正バンディング D デッサン・歯型彫刻 4	平面の設計線Dに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (上顎第一大臼歯・上顎第二大臼歯)
123・124			国家試験 対策	矯正バンディング(D修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Dに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(上顎第一大臼歯・上顎第二大臼歯)
125・126			国家試験 対策	矯正バンディング A デッサン・歯型彫刻 5	平面の設計線Aに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (下顎第一小臼歯・下顎第二小臼歯)
127・128			国家試験 対策	矯正バンディング(A修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Aに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(下顎第一小臼歯・下顎第二小臼歯)
129・130			国家試験 対策	矯正バンディング B デッサン・歯型彫刻 6	平面の設計線Bに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (下顎第一大臼歯・下顎第二大臼歯)
131・132			国家試験 対策	矯正バンディング(B修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Bに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(下顎第一大臼歯・下顎第二大臼歯)
133・134			国家試験 対策	矯正バンディング C デッサン・歯型彫刻 7	平面の設計線Cに沿って矯正線の屈曲ができる。各歯芽の形態をデッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現ができる。 (下顎中切歯・下顎側切歯)
135・136			国家試験 対策	矯正バンディング(C修正) デッサン・歯型彫刻(修正)	平面の設計線Cに沿って矯正線の屈曲修正ができる。デッサンと石膏彫刻によって歯の特徴再現修正ができる。(下顎中切歯・下顎側切歯)
評価基準		教科書			参考書
筆記試験	0%				国家試験対策の手引き
実技試験	0%				
提出物	100%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:45~12:15)

3限目(13:15~14:45)

4限目(15:00~16:30)